B6FJ-3621-01

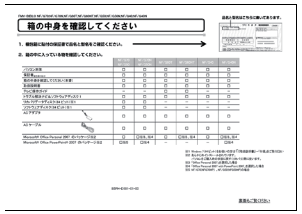
FMV DESKPOWER

補足情報

『取扱説明書』の補足情報です。
より詳しい使い方や、細かい設定を変更する方法などを説明しています。

●パソコンに添付の紙マニュアルもあわせてご覧ください。

□『箱の中身を確認してください』



添付の機器、マニュアルなどの一覧です。ご購入後、すぐに、添付品が揃っているか確認してください。

□『取扱説明書』



使用上のご注意、パソコンを使うための準備、基本的な取り扱い方法、ご購入時の状態に戻す方法、お問い合わせ方法などを説明しています。

□『テレビ操作ガイド』



テレビの操作のしかたについて説明しています。
（テレビチューナー搭載機種のみ）

FUJITSU

目　次

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 本文中での書き分けについて

本書には、複数の機種の内容が含まれています。機種によっては、記載されている機能が搭載されていない場合があります。また、機種により説明が異なる場合は、書き分けています。
お使いの機種にあった記載をお読みください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
Point	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	冊子のマニュアルを表しています。
	CD や DVD などのディスクを表しています。
→	参照ページを表しています。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「▶」でつなげて記述しています。

例：（スタート）をクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
↓
（スタート）▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」をクリックします。

■ 画面例およびイラストについて

画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 製品の呼び方

このマニュアルでの製品名称を、次のように略して表記することがあります。

製品名称	このマニュアルでの表記
FMV-DESKPOWER	FMV または DESKPOWER またはこのパソコン
Windows® 7 Home Premium 日本語 64 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7 Home Premium
Windows® 7 Home Premium 日本語 32 ビット 正規版	
Windows Vista®	Windows または Windows Vista
Windows® XP	Windows または Windows XP
Windows® Internet Explorer® 8	Internet Explorer 8 または Internet Explorer
Microsoft® Office Personal 2007	Office 2007 または Office Personal 2007
Microsoft® Office Personal 2007 2 年間ライセンス版	Office 2007 または Office Personal 2007
Microsoft® Office Personal 2007 with Microsoft® Office PowerPoint® 2007	Office 2007 または Office Personal 2007 または Office Personal 2007 with PowerPoint 2007

製品名称	このマニュアルでの表記
Microsoft® Office Professional 2007	Office Professional 2007
Microsoft® Office PowerPoint® 2007	PowerPoint 2007 または Office PowerPoint 2007
Corel® WinDVD®	WinDVD
Blu-ray Disc ドライブ	CD/DVD ドライブ
スーパーマルチドライブ	

■ お問い合わせ先／ URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やURLは2009年12月現在のものです。

■ 安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
🛇	🛇で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
●	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 警告ラベル／注意ラベル

本製品には警告・注意ラベルが貼ってあります。
これらのラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Live、Internet Explorer、Office ロゴ、Outlook、Excel、PowerPoint は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテルおよび Intel は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
NVIDIA、GeForce は、NVIDIA Corporation の登録商標です。
Corel、Corel のロゴ、WinDVD は Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。
HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
Bluetooth® は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

仕様確認表

このマニュアルの記載の中で、お使いの機種によってご確認いただく内容が異なる部分があります。次の表や、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご覧になり、該当箇所をご確認ください。

シリーズ名		F シリーズ							CE シリーズ			
品名		F/G90D	F/G90N F/G87N	F/G70T	F/G70N F/G67N	F/G60	F/G63N F/G60N	F/G50T	CE/G50	CE/G55N CE/G50N	CE/G40	CE/G45N CE/G40N
液晶ディスプレイ	23 型ワイド液晶（搭載）	●	●	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	20 型ワイド液晶（搭載）	−	−	●	●	●	●	●	−	−	−	−
	24 型ワイド液晶（添付）[注]	−	−	−	−	−	−	−	●	△	−	△
	22 型ワイド液晶（添付）[注]	−	−	−	−	−	−	−	−	△	●	△
映像出力（2 画面表示）	HDMI 出力端子	−	−	−	−	−	−	−	●	●	−	−
	アナログ RGB コネクタ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	●	●
無線 LAN	IEEE 802.11b/g/n 準拠（タイプ 1）	●	△	●	△	−	−	−	−	△	−	−
	IEEE 802.11b/g/n 準拠（タイプ 2）	−	−	−	−	●	△	●	−	−	−	−
テレビチューナー	DigitalTVbox	●	●	−	−	−	−	−	−	−	−	−
	Windows Media Center	−	−	●	●	−	−	●	−	−	−	−

●：搭載、△：非搭載（カスタムメイドモデルは機能を選択した場合に搭載）、－：非搭載

注：カスタムメイドモデルで、ディスプレイ「なし」を選択した場合、液晶ディスプレイは添付されません。

1. ディスプレイ

画面の解像度と発色数

ここでは、このパソコンで表示できる画面の解像度や発色数について説明しています。

解像度を高く（大きい数字に）すると画面を広く使えるようになり、多くのウィンドウを表示できます。発色数を増やすと画面に表示できる色数が多くなります。

Point

- 解像度とは、縦横にどれだけの点（ピクセル）を表示できるかを示すものです。
- ソフトウェアによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

表示できる解像度と発色数

表示できる解像度はお使いのディスプレイによって異なります。パソコンに搭載または添付されているディスプレイは、「仕様確認表」（→ P.5）でご確認いただけます。

重要

- このパソコンでは、次の表に書かれている解像度でお使いください。
- CE シリーズの場合、モニター切り換え器などをお使いになると、解像度やリフレッシュレートを正しく設定できないことがあります。その場合は、パソコン本体とディスプレイを直接接続してお使いください。
- 次の場合は設定を変更しないでください。正しく表示されないことがあります。
  - ・DVD-VIDEO などの動画再生時
  - ・テレビ機能をお使いの場合（テレビチューナー搭載機種のみ）

■ 23 型ワイド液晶ディスプレイの場合

解像度（ピクセル）	設定可能な発色数 [注 1]	
	High Color（16 ビット）[注 2]	True Color（32 ビット）[注 3]
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1280 × 1024	○	○
1920 × 1080	○	●

注 1： ○は表示可能、●はご購入時の設定です。

注 2： High Color（16 ビット）…6 万 5 千色

注 3： True Color（32 ビット）…1677 万色

■ 20 型ワイド液晶ディスプレイの場合

解像度（ピクセル）	設定可能な発色数 [注 1]	
	High Color（16 ビット）[注 2]	True Color（32 ビット）[注 3]
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1600 × 900	○	●

注 1： ○は表示可能、●はご購入時の設定です。
注 2： High Color（16 ビット）…6 万 5 千色
注 3： True Color（32 ビット）…1677 万色

■ 24 型ワイド液晶ディスプレイの場合

解像度（ピクセル）	設定可能な発色数 [注 1]	
	High Color（16 ビット）[注 2]	True Color（32 ビット）[注 3]
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1280 × 1024	○	○
1440 × 900	○	○
1600 × 1200	○	○
1680 × 1050	○	○
1920 × 1200	○	●

注 1： ○は表示可能、●はご購入時の設定です。

注 2： High Color（16 ビット）…6 万 5 千色

注 3： True Color（32 ビット）…1677 万色

■ 22 型ワイド液晶ディスプレイの場合

解像度（ピクセル）	設定可能な発色数 [注 1]	
	High Color（16 ビット）[注 2]	True Color（32 ビット）[注 3]
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1280 × 1024	○	○
1440 × 900	○	○
1680 × 1050	○	●

注 1： ○は表示可能、●はご購入時の設定です。

注 2： High Color（16 ビット）…6 万 5 千色

注 3： True Color（32 ビット）…1677 万色

■ ディスプレイが添付されていない場合

お使いのディスプレイで表示できる解像度と発色数は、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。

解像度（ピクセル）[注 1]	設定可能な発色数 [注 2]	
	High Color（16 ビット）[注 3]	True Color（32 ビット）[注 4]
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	●
1280 × 1024	○	○
1360 × 768	○	○
1440 × 900	○	○
1600 × 1200	○	○
1680 × 1050	○	○
1920 × 1080	○	○
1920 × 1200	○	○

注 1： お使いのディスプレイが各解像度をサポートしている必要があります。ディスプレイがサポートしていない解像度はお使いになれません。

注 2： ○は表示可能、●はご購入時の設定です。

注 3： High Color（16 ビット）…6 万 5 千色

注 4： True Color（32 ビット）…1677 万色

同時表示／マルチモニター

アナログ RGB コネクタ搭載機種のみ

Point

- HDMI 出力端子搭載機種の場合
  同時表示やマルチモニター機能を使用している場合の解像度や発色数については、「HDMI 接続（HDMI 出力端子搭載機種のみ）」－「表示できる解像度と発色数」（→ P.34）をご覧ください。

このパソコンでは、2 台のディスプレイを接続して、両方に同じ画面を表示したり（同時表示）、マルチモニター機能を使用したりすることができます。

2 台接続したときに表示できる解像度と発色数は、お使いのディスプレイによって異なります。

このパソコンに添付のディスプレイの解像度と発色数については、「表示できる解像度と発色数」（→ P.6）をご覧ください。別売のディスプレイについては、「表示できる解像度と発色数」とあわせて、お使いのディスプレイのマニュアルもご覧ください。

画面の解像度や発色数の変更

ここでは、このパソコンで表示する画面の解像度や発色数を変更する方法について説明しています。

解像度や発色数を変更するときの注意

- 解像度や発色数を変更する前に、作業中のデータを保存し、常駐しているものを含むすべてのソフトウェアを終了させてください。
- CE シリーズの場合、解像度や発色数の設定によっては、画面表示の調整が必要な場合があります。詳しくは、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- ソフトウェアによっては、解像度や発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。お使いになるソフトウェアの動作環境を確認し、解像度や発色数を変更してください。
- 解像度を変更するときに、一時的に画面が乱れることがありますが、動作には問題ありません。

解像度や発色数を変更する

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。

「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

2 解像度を変更します。

「解像度」の ▼ をクリックし、解像度を変更します。



解像度の変更
をドラッグします。

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

3 「適用」をクリックします。

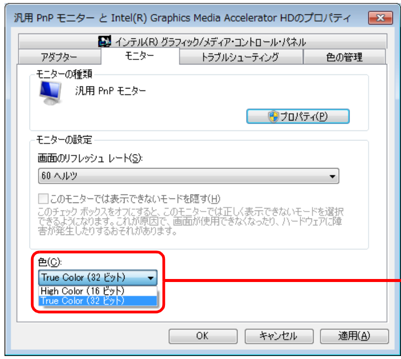
「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
画面の指示に従って操作してください。
発色数を変更しない場合は、手順９に進んでください。

4 「詳細設定」をクリックします。

5 「モニター」タブをクリックします。

6 発色数を変更します。

「色」の ▼ をクリックし、一覧から設定したい発色数をクリックしてください。



発色数の変更
▼ をクリックして発色数を選びます。

7 「画面のリフレッシュレート」の ▼ をクリックし、一覧から「60 ヘルツ」をクリックします。

8 「適用」をクリックします。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
画面の指示に従って操作してください。

9 「OK」をクリックします。

「画面の解像度」ウィンドウに戻ります。

10 「OK」をクリックします。

画面の調整

F シリーズのみ

画面の表示や音声を消す

留守中や就寝中などに画面の表示やスピーカーからの音声を一時的に消して、消費電力を低減させることができます。このパソコンには、「おやすみディスプレイ」を利用する方法と、パソコン本体の「画面オフ」ボタンを利用する方法があります。

Point

- 「おやすみディスプレイ」機能や「画面オフ」ボタンは Windows の省電力機能とは異なります。Windows の省電力機能については、「スリープ／休止状態」（→ P.61）をご覧ください。

■ おやすみディスプレイ

テレビ番組の予約録画（テレビチューナー搭載機種のみ）やメールの受信などでパソコンが自動的に起動した場合、画面の表示やスピーカーからの音声を消すときは、「おやすみディスプレイ」を利用します。

このパソコンご購入時は、パソコンが自動的に起動した場合に画面の表示や音声が消されるように設定されています。これは、「おやすみディスプレイ」の設定が「オン」になっている状態です。Windows が起動しているときは、画面オフボタンが点灯します。

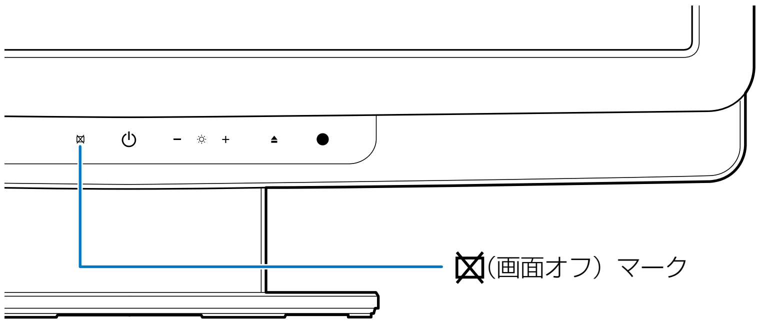
「おやすみディスプレイ」機能を利用して画面の表示や音声が消えている場合は、電源ボタンと画面オフボタンのみ点灯しています。

■ 画面オフボタン

CD や DVD、Blu-ray Disc（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）にデータを書き込んでいたり、一時的にパソコンの前を離れたりする場合、画面の表示やスピーカーからの音声を消すときは、パソコン本体前面の「画面オフ」ボタンを利用します。

1 パソコン本体前面の⊠(画面オフ）マークに触れます。

手袋や絆創膏などのない、素手で触れてください。



（イラストは機種や状況により異なります）

パソコンの画面の表示や音声が消えます。

「画面オフ」ボタンを利用して画面の表示や音声が消えている場合は、電源ボタンと画面オフボタンのみ点灯しています。

□画面オフボタンが消灯している場合

画面オフボタンが消灯している場合は、⊠(画面オフ）マークに触れても画面の表示や音声は消えません。次のことを確認してください。

- Windows にログオンしていない場合
  Windows にログオンした後、もう一度⊠(画面オフ）マークに触れてください。
- 「おやすみディスプレイ」の設定が「オフ」になっている場合
  「おやすみディスプレイの設定」ウィンドウで「おやすみディスプレイを行う」の □ をクリックし、☑ にしてください。
  また、必要なソフトウェアがインストールされていることを確認してください。

■ 画面の表示や音声を元に戻す

「おやすみディスプレイ」機能や「画面オフ」ボタンを利用して画面の表示や音声が消えている場合に元の状態に戻すときは、次のいずれかの操作をしてください。

- キーボードのキーを押す
- マウスを操作する
- 液晶ディスプレイにタッチする（タッチパネル搭載機種のみ）
- パソコン本体の⏻（電源）マークに触れる
- キーボードのパソコン電源ボタンを押す（ワイヤレスキーボード添付機種のみ）
- リモコンのボタンを押す（テレビチューナー搭載機種のみ）
- パソコン本体前面の⊠（画面オフ）マークに触れる

□画面の表示や音声が元に戻らない場合

⊠（画面オフ）マークに触れても画面の表示や音声が元に戻らない場合は、次の状態になっていないことを確認してください。

- Windows にログオンしていない場合
  Windows にログオンしてください。
- 「おやすみディスプレイ」の設定が「オフ」になっている場合
  「おやすみディスプレイの設定」ウィンドウで「おやすみディスプレイを行う」の☐をクリックし、☑にしてください。
  また、必要なソフトウェアがインストールされていることを確認してください。
- Windows の省電力機能が働いている
  パソコンの省電力機能の状態によっては、⊠（画面オフ）マークに触れても、画面の表示や音声が元に戻らないことがあります。その場合は、次のいずれかの操作をします。
  ・キーボードのキーを押す
  ・マウスを操作する
  ・液晶ディスプレイにタッチする（タッチパネル搭載機種のみ）

□「おやすみディスプレイ」の設定を変更する

このパソコンご購入時は、「おやすみディスプレイ」の設定が有効になっています。また、「おやすみディスプレイ」機能で画面の表示や音声が消えている場合にマウスを動かすと、元の状態に戻る（「おやすみディスプレイ」が解除される）ように設定されています。

「おやすみディスプレイ」や「画面オフ」ボタンを利用しない場合や、周りの振動でマウスが動いたことによって意図せずに元の状態に戻ってしまう場合は、設定を変更してください。

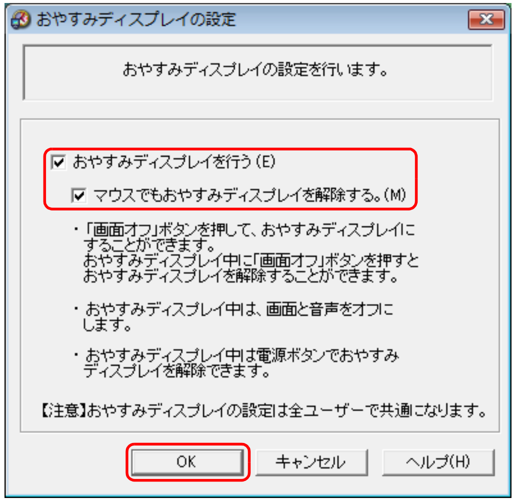
1 **（スタート）▶「すべてのプログラム」▶「PowerUtility」▶「スケジュール」▶「おやすみディスプレイ設定変更」の順にクリックします。**

2 **設定を変更し、「OK」をクリックします。**

●「おやすみディスプレイ」や「画面オフ」ボタンを利用しない場合
「おやすみディスプレイを行う」の☑をクリックし、☐にします。

●マウスの設定を無効にする場合

「マウスでもおやすみディスプレイを解除する」の ☑ をクリックし、□ にします。



（画面は機種や状況により異なります）

重要

- 「おやすみディスプレイ」機能や「画面オフ」ボタンをご利用になるには、次のソフトウェアが正常にパソコンにインストールされている必要があります。
  ・PowerUtility - スケジュール機能
  ・富士通拡張機能ユーティリティ
  なお、このパソコンご購入時は、インストールされています。

ディスプレイの設定を変更する

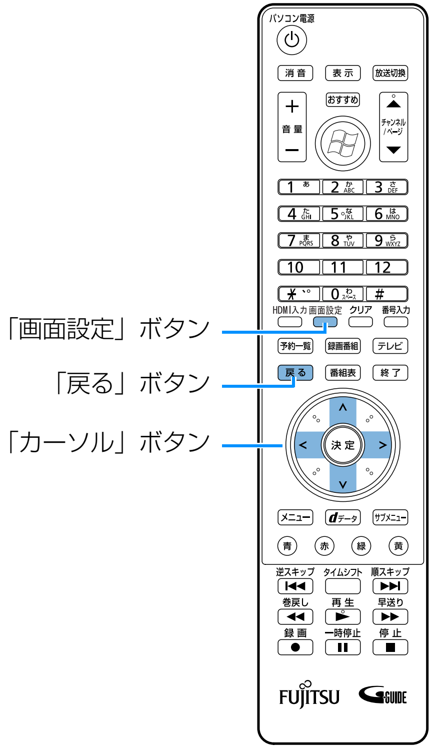
F/G90D、F/G90N、F/G87N のみ

リモコンを使ってディスプレイの設定を変更する方法を説明します。

■ メニュー画面の基本的な操作

このパソコンでは、メニュー画面でさまざまな画面の設定を行うことができます。設定には、リモコンの画面設定ボタン、戻るボタン、カーソルボタンを使用します。

□ボタンの基本機能



画面設定ボタン　→　メニュー画面を表示
戻るボタン　→　メニュー画面を終了
カーソルボタン　→　選択、調節

（イラストは機種や状況により異なります）

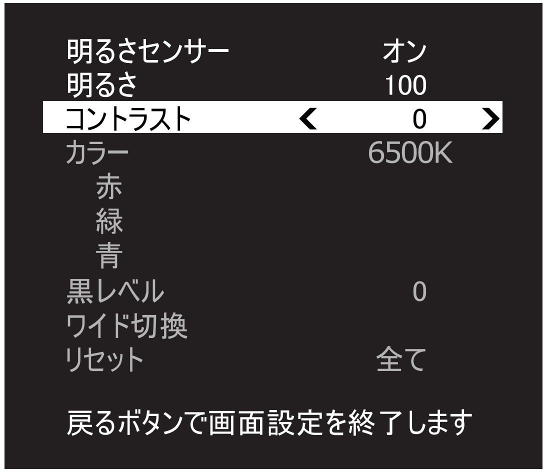
□操作手順

ここでは、「コントラスト」を調節する場合を例として、リモコンを使って設定を変更する方法を説明します。

1 **画面設定ボタンを押します。**

2 **カーソルボタン（∨、∧）で変更したい項目を選択します。**

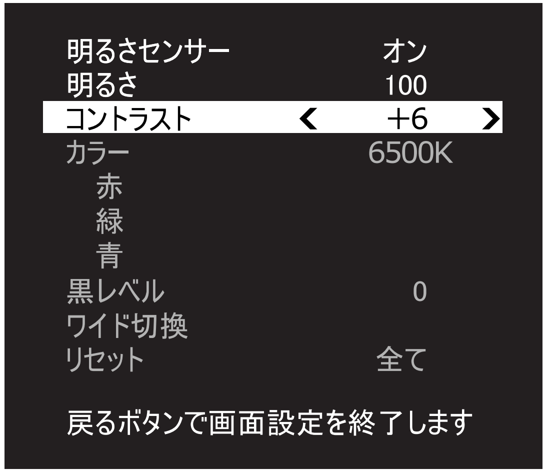
ここでは、「コントラスト」を選択しています。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

3 **カーソルボタン（‹、›）で設定値を変更し、お好みの設定に調節します。**

ここでは、›を押して、「+6」に設定しています。



4 **戻るボタンを押します。**

メニュー画面の表示が消えます。

Point

- 約１分以上ボタン操作を行わなかった場合、画面設定のメニューが消え、調節した内容で表示されます。

■ 調節する項目の内容

このパソコンで調節できる項目については、次の表をご覧ください。なお、画面の解像度によって、選択できる項目は異なります。

名称	機能
明るさセンサー	明るさセンサーのオン／オフを選択します。ご購入時の設定はオンです。 明るさセンサーがオンの場合は、パソコン本体前面の明るさ調節ボタンで明るさを調節中に、周囲の明るさレベルが 5 段階で表示されます。数字が大きいほど周囲が明るい状態です。
明るさ	画面全体の明るさを調節します。
コントラスト	画面の濃淡の強さ（コントラスト）を調節します。「カラー」で「sRGB」に設定している場合は、調節できません。
カラー	画面の色温度を設定します。sRGB、5000K、6500K、9300K、ユーザーから選択できます。色温度が低いと暖色系となり、色温度が高いと寒色系となります。 ご購入時の設定は 6500K です。 **sRGB**：色空間の国際標準規格である sRGB に対応した画質です。「あざやかウィンドウ」には対応していません。sRGB を選択した場合、コントラストと黒レベルは調節できません。 **ユーザー：**R（赤）、G（緑）、B（青）のレベルを個別に調節し、お好みの色にすることができます。
黒レベル	画面の黒浮きを調節します。「カラー」で「sRGB」に設定している場合は、調節できません。
ワイド切換	画面の解像度で 1280 × 1024、1024 × 768 または 800 × 600 を選択し、ディスプレイドライバーの設定を「ディスプレイスケーリングを保持」に設定した場合に表示されます。 映像の縦横比を変えて拡大表示するか、映像の縦横比を変えずに拡大表示するかを選択します。 **ワイド**：1280 × 1024、1024 × 768、800 × 600 の解像度の場合も、映像を画面全体に拡大して表示しますが、画面の上下左右の端はわずかに黒い帯になります。 **ノーマル**：映像の縦横比を変えずに拡大して表示します。画面の内側に映像が表示され、端は黒い帯になります。
リセット	**全て**：すべての項目をご購入時の設定に戻します。 **画質**：明るさ、コントラスト、カラー、黒レベルの設定を、ご購入時の状態に戻します。

重要

- 「ワイド切換」で「ワイド」を選択した場合
  このパソコンを営利目的、または公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどに置く場合、画面サイズ機能を使って画面の拡大、圧縮、または映像の一部カットを行った状態で使用すると、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがあります。

□「ワイド切換」が表示されない場合

ご購入時の状態では、ディスプレイのメニュー画面に「ワイド切換」は表示されません。
画面の解像度を 1280 × 1024、1024 × 768、または 800 × 600 に変更しても「ワイド切換」が表示されない場合は、次の手順で「ディスプレイスケーリングを保持」に設定してください。

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから「グラフィック プロパティ」をクリックします。

「インテル® グラフィック / メディア コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。

2 「ディスプレイ」の一覧で「一般設定」をクリックし、「スケーリング」の をクリックして「ディスプレイスケーリングを保持」を選択します。



（画面は機種や状況により異なります）

3 「適用」をクリックします。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
画面の指示に従って操作してください。

4 「OK」をクリックします。

あざやかウィンドウ設定

F/G90D、F/G90N、F/G87N のみ

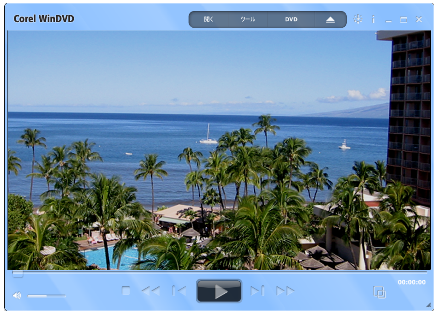
■「あざやかウィンドウ設定」について

□「あざやかウィンドウ設定」について

「あざやかウィンドウ設定」は、画面上の指定したウィンドウだけを自動的に画質補正し、鮮明な画質で表示する「あざやかウィンドウ機能」を使用するためのユーティリティソフトです。「あざやかウィンドウ機能」を使用すると、パソコンでテレビやビデオ、DVD-VIDEO などを見るとき、ご家庭のテレビ並みのあざやかな画質で楽しむことができます。
「あざやかウィンドウ設定」では、「あざやかウィンドウ」表示するウィンドウを最大 7 個まで登録することができます。

□「あざやかウィンドウ」の表示

「あざやかウィンドウ設定」で指定したウィンドウ（以降、あざやかウィンドウと呼びます）が画面に表示されている場合、あざやかウィンドウ内のみ画質補正した鮮明な表示になり、あざやかウィンドウの外側はディスプレイのメニューで設定した画質を維持します。例えば、DVD-VIDEO はあざやかな画質で見たいけれど、メールはあざやかだと疲れるという場合には、DVD-VIDEO を再生するウィンドウのみをあざやかに表示することができます。
あざやかウィンドウが画面内にない場合は、画面全体がディスプレイのメニューで設定した画質になります。



通常表示



あざやかウィンドウ
（ウィンドウの中（コンテンツ）のみあざやかに表示されます。）

重要

- 「あざやかウィンドウ」表示で動画をお楽しみいただくときには、周囲を充分明るくし、なるべく離れてご覧ください。
- 「あざやかウィンドウ」機能は、ご使用のディスプレイ上での表示を鮮明にするものです。したがって、画像の編集などに「あざやかウィンドウ」を使用すると、他のディスプレイで表示する場合や、印刷する場合に、意図したとおりに表示・印刷されない可能性があります。画像の編集などを行う場合は、「あざやかウィンドウ」機能をオフにしてご使用ください。

Point

- あざやかウィンドウを複数起動させた場合、あざやかに表示されるのは 1 つのウィンドウのみです。

■「あざやかウィンドウ」のオン／オフを切り替える

「あざやかウィンドウ」機能のオン／オフは、画面右下の通知領域にある をクリックして表示された「あざやかウィンドウ設定」アイコンで確認することができます。

- 「あざやかウィンドウ」機能がオンの場合
  「あざやかウィンドウ」表示対象のソフトウェアを起動すると、ウィンドウ内をあざやかウィンドウ表示します。
- 「あざやかウィンドウ」機能がオフの場合
  「あざやかウィンドウ」表示対象のソフトウェアが起動しても、あざやかウィンドウ表示しません。

次のいずれかの操作で、「あざやかウィンドウ」機能のオン／オフを切り替えることができます。

- 画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された または をクリックする
- 画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された または を右クリックし、「あざやかウィンドウ表示する」または「あざやかウィンドウ表示しない」をクリックする

重要

- ディスプレイの「カラー」を「sRGB」に設定している場合、「あざやかウィンドウ」は動作しません。
このとき、通知領域のアイコンをクリックして「あざやかウィンドウ」表示をオンにしようとすると、「カラーの設定を元に戻しますか？」というメッセージが表示されます。
「カラー」の設定を元に戻して「あざやかウィンドウ」表示をオンにする場合は、「はい」をクリックしてください。
- 「あざやかウィンドウ」は、標準表示仕様の解像度にのみ対応しています。標準表示仕様以外の解像度で表示した場合、「あざやかウィンドウ」表示ができなかったり、「あざやかウィンドウ」表示される範囲が正しく指定されなかったりすることがあります。

Point

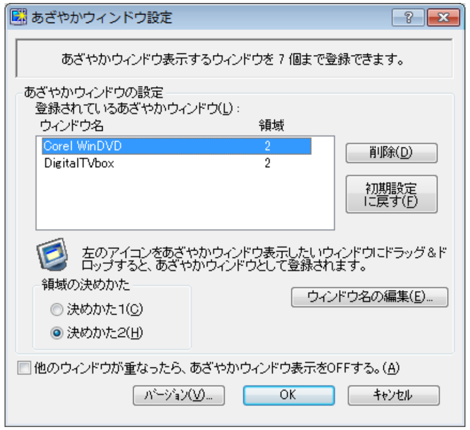
- パソコンが省電力状態から復帰したときに、「あざやかウィンドウ」機能がオフになっている場合があります。再度「あざやかウィンドウ」表示するには、この手順で操作を行って「あざやかウィンドウ」機能をオンに設定してください。
- まれに、「あざやかウィンドウ」表示されている範囲がずれる場合や、「あざやかウィンドウ」表示されない場合があります。そのような場合は、画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された「あざやかウィンドウ設定」のアイコンを 1 ～ 2 回クリックして、再度「あざやかウィンドウ設定」のアイコンをオンの状態にしてください。

■「あざやかウィンドウ」の設定を変更する

□「あざやかウィンドウ設定」画面を表示する

1 画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された または を右クリックし、「あざやかウィンドウ設定」をクリックします。

「あざやかウィンドウ設定」の画面が表示されます。



（画面は機種や状況により異なります）

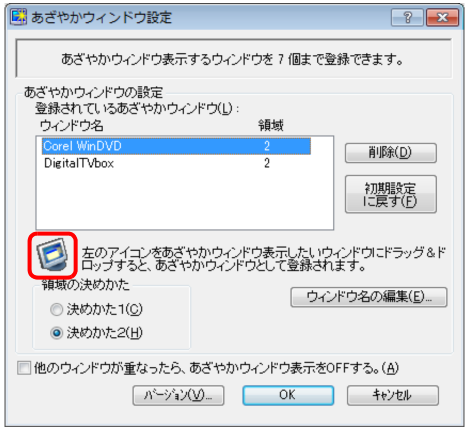
Point

- ソフトウェアが全画面表示中などで、画面右下の通知領域が表示されていない場合は、ショートカットキー（【Ctrl】＋【Alt】＋【A】）を押すことによって、「あざやかウィンドウ設定」画面を表示することができます。

□「あざやかウィンドウ」で表示するソフトウェアを登録する

「あざやかウィンドウ」はソフトウェアを 7 つまで登録することができます。

1 **「あざやかウィンドウ」で表示したいウィンドウの上に （「あざやかウィンドウ指定」アイコン）をドラッグします。**



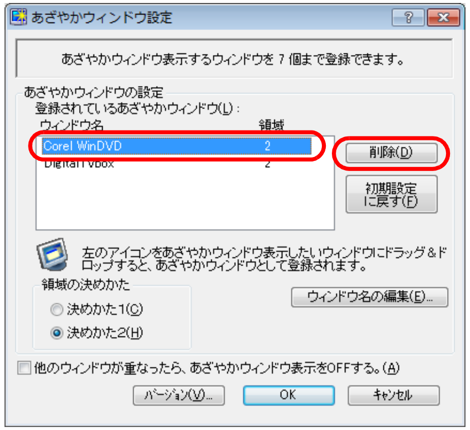
（画面は機種や状況により異なります）

Point

- 「あざやかウィンドウ」はソフトウェアを 7 つまで登録できますが、表示するときは、登録したどれか 1 つのウィンドウだけが「あざやかウィンドウ」表示されます。
- 常に手前に表示するソフトウェアを「あざやかウィンドウ」に登録していると、他のソフトウェアが「あざやかウィンドウ」表示されない場合があります。

□ソフトウェアの登録を削除する

1 **登録されているソフトウェアから削除したいものをクリックし、「削除」をクリックします。**

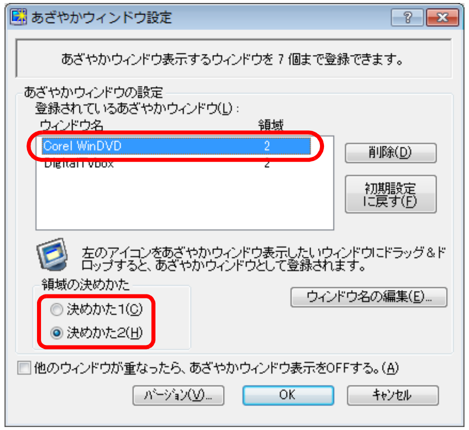


（画面は機種や状況により異なります）

□領域を選択する

1 **登録されているソフトウェアから変更したいウィンドウ名をクリックします。**

2 **「領域の決めかた」で「決めかた 1」または「決めかた 2」の ○ をクリックし、◉ にします。**



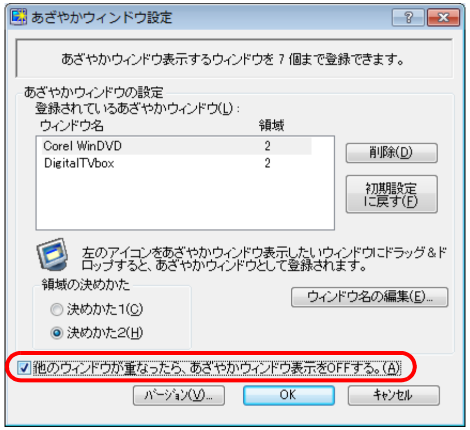
（画面は機種や状況により異なります）

Point

- ご希望の領域に近いほうをご使用ください。ただし、ソフトウェアによっては、ご希望の領域を「あざやかウィンドウ」表示できない場合があります。
- 領域が「FULL」に設定されているソフトウェアは設定を変更できません。全画面で表示した場合のみ、「あざやかウィンドウ」表示の設定が有効になります。

□他のウィンドウと重なったときの表示設定を変更する

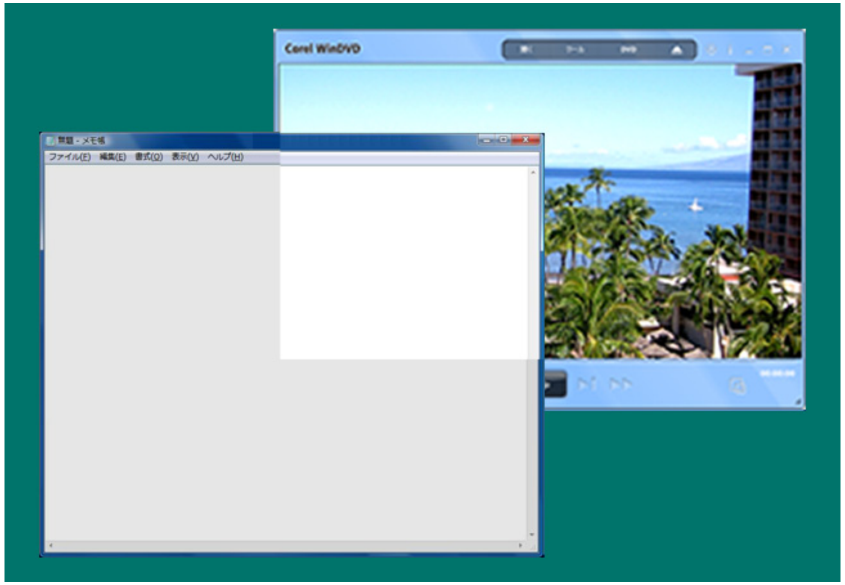
他のウィンドウと重なった場合、「あざやかウィンドウ」表示をやめ、通常の表示にするには、「他のウィンドウが重なったら、あざやかウィンドウ表示を OFF する。」の □ をクリックして ☑ にします。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

Point

- ご購入時の設定は、他のウィンドウが上に重なった場合、下の「あざやかウィンドウ」と重なった表示領域も鮮明な画質で表示される設定になっています（「他のウィンドウが重なったら、あざやかウィンドウ表示を OFF する。」が □ となっています）。

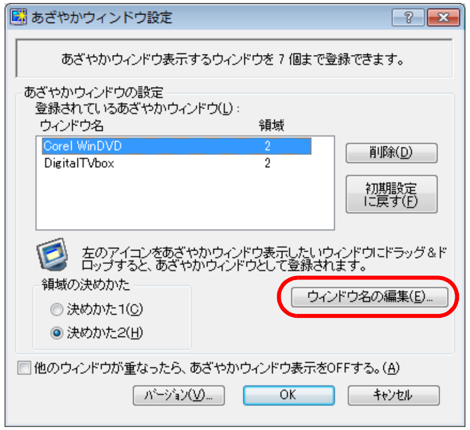


- スクリーンセーバーの設定で、「再開時にログオン画面に戻る」をチェックしてご使用の場合は、スクリーンセーバー起動時にスクリーンセーバーの一部が「あざやかウィンドウ」で表示されるときがあります。

□リストに表示されているウィンドウ名を変更する

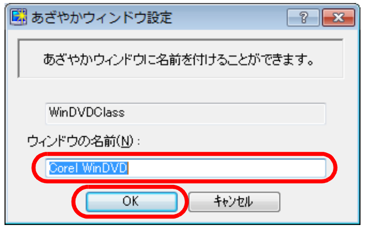
1 登録されているソフトウェアから変更したいウィンドウ名をクリックし、「ウィンドウ名の編集」をクリックします。

「あざやかウィンドウに名前を付けることができます。」と表示されます。



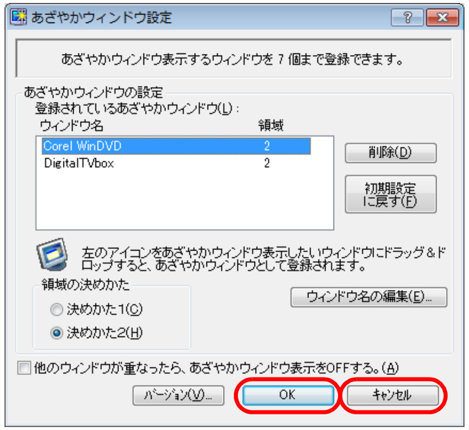
（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

2 「ウィンドウの名前」に好きな名前を入力し、「OK」をクリックします。



□「あざやかウィンドウ設定」画面を終了する

- **「OK」をクリックする。**
  変更内容が有効となります。
- **「キャンセル」をクリックする。**
  変更内容が無効となります。



（画面は機種や状況により異なります）

■「ハイコントラストモード」を使う

「あざやかウィンドウ設定」で指定したウィンドウだけでなく、デスクトップ画面も含めた通常の画面などもあざやかに表示したい場合、「ハイコントラストモード」を使うことで、簡単にあざやかな表示にすることができます。

1 画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された を右クリックし、「ハイコントラストモード」をクリックします。

「ハイコントラストモード」の横が となっている場合は、すでに「ハイコントラストモード」が有効となっています。

Point

- 「ハイコントラストモード」を使用する場合は、ディスプレイの「カラー」の設定を「sRGB」以外にしてください。「sRGB」では「ハイコントラストモード」は使用できません。
- 階調表示や特定の表示パターンで色のにじみなどが発生した場合は、「ハイコントラストモード」を無効にしてください。

HDMI 画面の調整

F/G90D、F/G90N、F/G87N のみ

ここでは、ゲーム機などの HDMI 出力機器の画面が表示されているときに、HDMI 画面の設定を変更する方法について説明しています。

基本的な操作

HDMI 画面の設定を変更する場合は、パソコン本体前面のボタンやリモコンを使います。

■ 音量を調節する

音量は、パソコン本体前面またはリモコンの音量調節ボタンで調節します。パソコン本体の音量調節ボタンを使う場合は、手袋や絆創膏などのない、素手で触れてください。

Point

- HDMI機器の音量は、キーボードの音量調節ボタンでは、調節できません。
- DVI-HDMI 変換ケーブルを使用した場合、映像信号のみが送られるため、音声は出力できません。

■ 画面の明るさを変更する

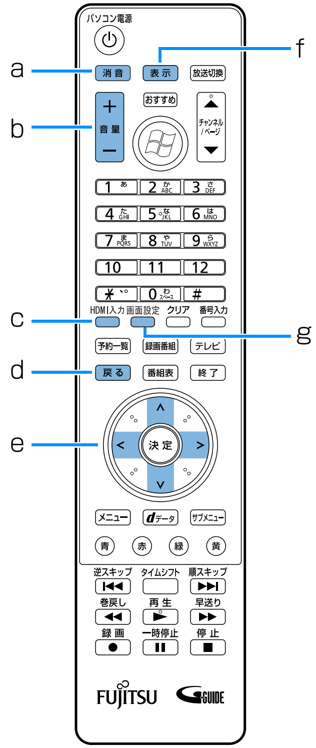
画面の明るさは、パソコン本体前面にある明るさ調節ボタンで調節します。手袋や絆創膏などのない、素手で触れてください。
明るさ調節中は、画面右下に明るさの設定値が表示されます。



（画面は機種や状況により異なります）

■ リモコンを使う

HDMI 画面を表示しているときに使用できる機能は、次のとおりです。



（イラストは機種や状況により異なります）

a. **消音ボタン**
HDMI 機器から出力されている音声を一時的に消します。もう一度押すと元に戻ります。

b. **音量ボタン**
HDMI 機器の音量を調節します。

c. HDMI 入力ボタン

ディスプレイに表示する映像を、パソコンと HDMI 入力端子に接続した機器の映像で切り換えます。

Point

- パソコンでテレビや DVD-VIDEO などの著作権保護技術により暗号化されているデジタル映像を表示中にHDMI 機器の画面に切り換えると、デジタル映像の表示が中断されることがあります。
  HDMI 機器の画面に切り換える際は、あらかじめ「DigitalTVbox」を待機状態にしてください。また、「G-GUIDE for Windows」や「WinDVD」を終了してください。

d. 戻るボタン

メニュー画面を終了します。

e. カーソルボタン

メニュー画面で設定項目を選択したり、設定値を調節したりします。

f. 表示ボタン

HDMI機器の入力映像信号の種類(VGA/480i/480p/720p/1080i/1080p)を表示します。

Point

- HDMI 出力機器の映像信号が 1080i(1125i)または 480i(525i)のインターレースの場合は、映像が上下に揺れて表示されます。HDMI 出力機器の映像信号は、1080p(1125p)、720p(750p)、480p(525p)のいずれかのプログレッシブに変更してお使いください。

g. 画面設定ボタン

メニュー画面を表示します。メニュー画面については、「調節する項目の内容」をご覧ください。

調節する項目の内容

HDMI 画面で調節できる項目については、次の表をご覧ください。調節方法については、「ディスプレイの設定を変更する」(→ P.13)をご覧ください。

名称	機能
画質モード	映像の内容によってお好みの画質を 4 種類から選択します。 **スタンダード**：適度なコントラストで標準的な画質になります。 **シネマ**：明るさ、コントラストを抑え、暗い映像を見やすくします。映画を見るときなどに適しています。 **ダイナミック**：コントラストの高い、メリハリの強い画質になります。 **ゲーム**：明るさを抑え、目に優しい映像にします。テレビゲームをするときなどに適しています。
明るさセンサー	明るさセンサーのオン／オフを選択します。 明るさセンサーがオンの場合は、パソコン本体前面の明るさ調節ボタンで明るさを調節中に、周囲の明るさレベルが 5 段階で表示されます。数字が大きいほど周囲が明るい状態です。
明るさ	画面全体の明るさを調節します。
コントラスト	画面の濃淡の強さ(コントラスト)を調節します。
色あい	画面の色あいを調節します。 **＋**：肌色が緑がかります。 **－**：肌色が紫がかります。
色のこさ	画面の色の濃さを調節します。 **＋**：濃くなります。 **－**：薄くなります。
黒レベル	画面の黒浮きを調節します。
シャープネス	映像の輪郭の強調度を調節します。

名称	機能
画面サイズ	画面サイズを選択します。入力映像信号の種類によって、選択できる画面サイズは異なります。 **<u>VGA、480i、480p の映像信号を表示している場合</u>** **ノーマル**：映像を拡大せずに、縦横比４：３で表示します。 **ワイド**：映像を画面全体に表示しますが、画面の上下左右の端はわずかに黒い帯になることがあります。 **<u>720p、1080i、1080p の映像信号を表示している場合</u>** **リアルサイズ**：映像信号をそのまま表示します。映像によっては、画面の端がちらついたり、色がにじんだように見えることがあります。 **ジャストフィット**：縦横比を保持したまま、映像の上下左右をわずかにカットし、画面いっぱいに拡大して表示します。
ヘッドホン出力	ヘッドホン・ラインアウト兼用端子から出力する音声を選択します。 **PC 音声**：HDMI 画面表示中もパソコンの音声を出力します。このときスピーカーからは HDMI の音声が出力されます。 **HDMI 音声**：スピーカーをミュート（消音）し、HDMI の音声を出力します。
リセット	**全て**：すべての項目をご購入時の設定に戻します。 **画質**：明るさと色に関する設定のみを、ご購入時の設定に戻します。

HDMI 機器に関する Q&A

HDMI 出力機器の映像を表示している際に何か困ったことが起きた場合は、次の内容をお調べください。お客様からお問い合わせの多いトラブルに関する症状、原因、対処方法を記載しています。

■ 画面が表示されない

症状	考えられる原因	対処方法
外部入力ボタンが消灯している	HDMI画面に切り換わっていない。	パソコン本体前面の外部入力ボタン、またはリモコンの HDMI 入力ボタンを押してください。
外部入力ボタンが点灯している	HDMI入力端子にHDMIケーブルが正しく接続されていない。	このパソコンと HDMI 出力機器に HDMI ケーブルを正しく接続してください。このパソコンへの接続については、『取扱説明書』－「取り扱い」－「HDMI 機器」をご覧ください。
	HDMI出力機器の電源が入っていない。	HDMI 出力機器の電源を入れてください。

■ 画面がおかしい

症状	考えられる原因	対処方法
画面が明るすぎる	明るさが最大になっている。	明るさ調節ボタンで明るさを調節してください。
画面が暗い	明るさが最小になっている。	明るさ調節ボタンで明るさを調節してください。
画面が明るくなったり暗くなったりした	明るさセンサーがオンになっている。	パソコン本体を設置している環境の明るさに応じて画面の明るさが変わることがあります。 明るさセンサーをオフにして、明るさ調節ボタンで明るさを調節してください。
画面全体に表示されない	画面サイズの設定が「ノーマル」になっている。	画面サイズを「ワイド」に変更してください。
画面の縦横比が崩れてしまう	画面サイズの設定が「ワイド」になっている。	画面サイズを「ノーマル」に変更してください。
・画面がちらつく ・色がにじんだように見える	一部の階調や表示パターンによっては、ちらつきやにじみが発生します。	画質モードや、色に関する設定を変更して、ちらつきやにじみの少ない画質に調節してください。
映像が上下に揺れる	HDMI出力機器の映像信号が1080i（1125i）または480i（525i）のインターレース方式になっている。 この場合、リモコンの表示ボタンを押すと「1080i」または「480i」と表示されます。	HDMI出力機器の映像信号を1080p（1125p）、720p（750p）、480p（525p）のいずれかのプログレッシブ方式に変更してください。

■ 音が聞こえない

症状	考えられる原因	対処方法
スピーカーから音が聞こえない	消音に設定している。	パソコン本体前面の音量調節ボタン、またはリモコンの音量ボタンで音量を調節してください。
	音量が小さすぎる。	
	ヘッドホンが接続されている。	ヘッドホンを外してください。
ヘッドホンからHDMIの音が聞こえない	ヘッドホン出力の設定が「PC 音声」になっている。	ヘッドホン出力の設定を「HDMI音声」に変更してください。
ヘッドホンを接続してもスピーカーから音が聞こえる		

表示するディスプレイの切り替え

アナログ RGB コネクタ搭載機種のみ

Point

- HDMI 出力端子搭載機種の場合
  2 台目のディスプレイの接続方法や表示の切り替え方法については、「HDMI接続(HDMI出力端子搭載機種のみ)」(→P.32)をご覧ください。

ディスプレイの接続

このパソコンでは、ディスプレイを 2 台接続して、2 台のディスプレイに同じ画面を表示したり、マルチモニター機能を使用したりできます。
ここでは、2 台目のディスプレイを接続する手順について説明しています。

■ 必要なものを用意する

● **ディスプレイ**
アナログディスプレイを用意してください。

● **ディスプレイケーブル**
ディスプレイとパソコンを接続するケーブルです。ディスプレイの背面につながっていたり、添付されています。
添付されていない場合や、コネクタの形状が異なって接続できない場合は、「PC/AT 互換機用」または「DOS/V 用」と表示されたもので、ディスプレイのコネクタの形状にあったケーブルを用意してください。

● **ディスプレイのマニュアル**
ディスプレイにより接続方法が異なります。必ずディスプレイのマニュアルもご覧ください。

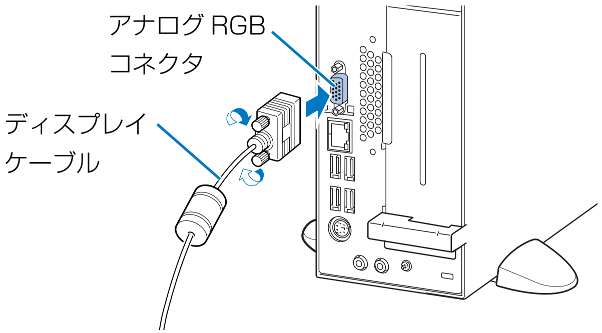
■ ディスプレイを接続する

⚠ 警告

● ディスプレイの接続／取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

2 パソコン本体背面のアナログ RGB コネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。
コネクタは正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込み、ディスプレイケーブルを左右のネジで固定します。



(イラストは機種や状況により異なります)

3 ディスプレイにディスプレイケーブルのもう一方のコネクタを接続します。
接続方法は、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 ディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

ディスプレイに電源ケーブルが添付されている場合、電源ケーブルの電源プラグは、コンセントに接続してください。

5 パソコン本体の電源を入れます。

続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

ディスプレイを接続後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、ディスプレイのマニュアルをご覧になり、必要なファイルをインストールしてください。ディスプレイに CD-ROM などが添付されていることもあります。

表示するディスプレイを切り替える

このパソコンにディスプレイを 2 台接続した場合に、表示するディスプレイを切り替えることができます。
ここでは、切り替え方法について説明しています。

■ ディスプレイの表示について

ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。

- 1 つのディスプレイで表示する
  - ・DVI ケーブルで接続したディスプレイ
  - ・アナログディスプレイケーブルで接続したディスプレイ
- 2 つのディスプレイで同時に表示する
  - ・DVI ケーブルで接続したディスプレイと、アナログディスプレイケーブルで接続したディスプレイ
- 2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示する
  2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示する方法については、「マルチモニター機能」（→ P.30）をご覧ください。

重要

- 動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えないでください。

■「画面の設定」で切り替える

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから「グラフィック プロパティ」をクリックします。

「インテル® グラフィック / メディア コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。

2 「ディスプレイ」の一覧で「マルチ ディスプレイ」をクリックします。

3 「動作モード」の ▼ をクリックし、一覧から「シングル ディスプレイ」または「クローン ディスプレイ」をクリックします。

●1 つのディスプレイで表示する場合

「シングル ディスプレイ」を選択し、「主ディスプレイ」の ▼ をクリックして表示するディスプレイを選択します。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

●2 つのディスプレイで同時に表示する場合

「クローン ディスプレイ」を選択します。



Point

- 主ディスプレイ、2 番目のディスプレイの解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「一般設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。
- 「1 つのディスプレイで表示する」から「2 つのディスプレイで同時に表示する」設定に変更する場合
  解像度を「1024 × 768」、リフレッシュレートを「60Hz」に設定してください。他の値にすると、画面が正常に表示されない場合があります。

4 「適用」をクリックし、ディスプレイを切り替えます。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従って操作してください。

5 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

Point

- ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。状況に応じて次の操作を行ってください。

  何も表示されない場合

  何も操作しないでお待ちください。15 秒ぐらい待つと、表示先が 1 台目のディスプレイに戻ります。

  正常に表示されない場合

  ディスプレイのマニュアルでディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、次の方法で設定を変更してください。

  1. デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。
     「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。
  2. 「詳細設定」をクリックします。
  3. 「モニター」タブをクリックします。
  4. リフレッシュレートをディスプレイでサポートする走査周波数に設定し、「OK」をクリックします。
     画面にメッセージが表示された場合は、画面の指示に従って操作してください。

- 別のディスプレイに変更する場合は、変更前と変更後の両方のディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、パソコンの電源を切った後、別のディスプレイを接続してください。ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、ディスプレイを変更したときに、画面が表示できなくなる場合があります。

マルチモニター機能

このパソコンには、DVI ケーブルで接続したディスプレイと、アナログディスプレイケーブルで接続したディスプレイを使用して、2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニター機能」があります。

■ マルチモニター機能をお使いになるうえでの注意

マルチモニター機能をお使いになる場合は、次の点に注意してください。

- マルチモニター機能をお使いになる場合は、「マルチモニター機能を設定する」の手順に従って操作してください。それ以外の手順では、正しく動作しないことがあります。
- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- マルチモニター機能を使用中は、次の点に注意してください。
  - ・2 つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、主ディスプレイと 2 番目のディスプレイの設定を変更しないでください。
  - ・2 番目のディスプレイのみに表示されているソフトウェアを起動中に、2 番目のディスプレイの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよびWindows の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- 一部のスクリーンセーバーは、主ディスプレイのみに表示されます。
- 解像度／発色数について
  - ・最大解像度は、接続したディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
  - ・主ディスプレイと 2 番目のディスプレイで、別々の発色数を設定しないでください。

■ マルチモニター機能を設定する

1　デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから「グラフィック プロパティ」をクリックします。

「インテル® グラフィック / メディア コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。

2　左の一覧から「マルチ ディスプレイ」をクリックします。

3　「動作モード」の▼をクリックし、一覧から「拡張デスクトップ」をクリックします。

4　ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。

●項目を左右にドラッグして移動させたい場合

「1」「2」と表示されたディスプレイのイラストを横に並べます。



左右に並べます。

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

●項目を上下にドラッグして移動させたい場合

「1」「2」と表示されたディスプレイのイラストを縦に並べます。



上下に並べます。

5　「適用」をクリックし、ディスプレイを切り替えます。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従って操作してください。

6　「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

Point

- 主ディスプレイ、2 番目のディスプレイの解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「一般設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。
- 手順 4 のイラストの配置により、ディスプレイ間の項目の移動方法が決定されます。ディスプレイ間で項目を左右にドラッグして移動させたい場合はイラストを横に並べて配置し、項目を上下にドラッグして移動させたい場合はイラストを縦に並べて配置します。ただし、イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。実際にはディスプレイが横に並んでいても、イラストは上下に並べて配置できます。

2. HDMI 接続　（HDMI 出力端子搭載機種のみ）

この章は、HDMI 出力端子搭載機種の方のみお読みください。

HDMI 機器を接続する

このパソコンでは、HDMI 入力端子をもつテレビやディスプレイ（以降、HDMI 機器）を接続して、ディスプレイと HDMI 機器に同じ画面を表示したり、マルチモニター機能を使用したりできます。
ここでは、HDMI 機器を接続する手順について説明しています。

必要なものを用意する

- **HDMI 機器**
  HDMI 入力端子のあるデジタルテレビやディスプレイを用意してください。
- **HDMI ケーブル**
  HDMI 機器とパソコンを接続するケーブルです。パソコンの映像と音声を 1 本のケーブルで HDMI 機器側に出力することができます。
  HDMI のロゴ表示があるケーブルをお使いになることをお勧めします。
- **HDMI 機器のマニュアル**
  HDMI 機器により接続方法が異なります。必ず HDMI 機器のマニュアルもご覧ください。

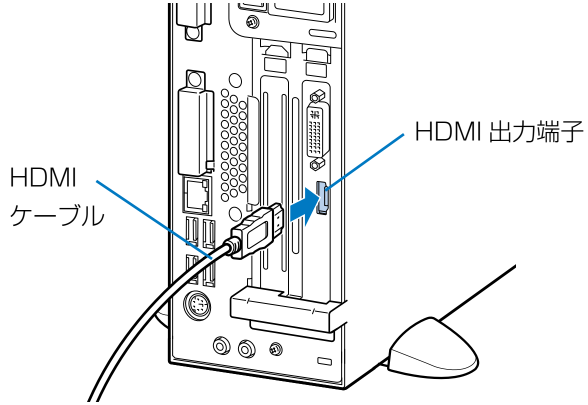
HDMI 機器を接続する

⚠ 警告

- HDMI 機器の接続／取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。
  この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

1 **パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。**

2 **パソコン本体背面の HDMI 出力端子に、HDMI ケーブルを接続します。**
コネクタは正面から見ると台形になっています。
コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込んでください。



（イラストは機種や状況により異なります）

3 **HDMI 機器に HDMI ケーブルのもう一方のコネクタを接続します。**

接続方法は、HDMI 機器のマニュアルをご覧ください。

4 **HDMI 機器の電源ケーブルを接続して、電源を入れます。**

5 **パソコン本体の電源を入れます。**

続いて、表示する画面を切り替えます。

表示を切り替える

このパソコンに HDMI 機器を接続した場合に、表示する画面を切り替えることができます。
ここでは、切り替え方法について説明しています。

画面の表示について

画面の表示は、次のように切り替えることができます。

- 1 つの画面で表示する
  - ・DVI ケーブルで接続したディスプレイ
  - ・HDMI ケーブルで接続したテレビやディスプレイ
- 2 つの画面で同時に表示する
  - ・DVI ケーブルで接続したディスプレイと、HDMI ケーブルで接続したテレビやディスプレイ
- 2 つの画面で 1 つのデスクトップを表示する

  2 つの画面で 1 つのデスクトップを表示する方法については、「マルチモニター機能」（→ P.37）をご覧ください。

重要

- 動画再生中に、表示する画面を切り替えないでください。

表示できる解像度と発色数

ここでは、このパソコンがサポートしている HDMI 機器の解像度と発色数について説明しています。
お使いの HDMI 機器によってサポートしている解像度が異なります。HDMI 機器の解像度については、お使いの HDMI 機器のマニュアルをご覧ください。

■ HDMI 機器のみで表示する場合

解像度（ピクセル）	設定可能な発色数	
	High Color（16 ビット）[注 1]	True Color（32 ビット）[注 2]
1280 × 720	○	○
1360 × 768	○	○
1920 × 1080	○	○

注 1： High Color（16 ビット）…6 万 5 千色
注 2： True Color（32 ビット）…1677 万色

■ ディスプレイと HDMI 機器の同時表示の場合

お使いのディスプレイと HDMI 機器の両方でサポートしている解像度と発色数で表示できます。
このパソコンでサポートしている解像度と発色数については、「ディスプレイ」－「画面の解像度と発色数」（→ P.6）をご覧ください。別売のディスプレイや HDMI 機器の解像度と発色数については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

「画面の設定」 で切り替える

Point

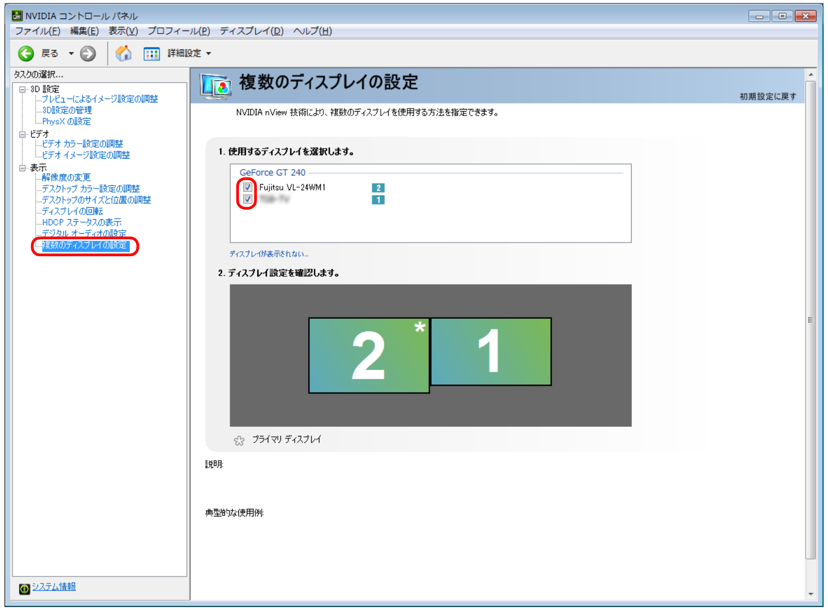
- 電源を入れたときに「NVIDIA ディスプレイセットアップウィザード」が表示された場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから「NVIDIA コントロールパネル」をクリックします。
「NVIDIA コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

Point

- 「NVIDIAコントロールパネルビューの選択」ウィンドウが表示された場合は、「詳細設定」の ○ をクリックして ◉ にし、「OK」をクリックしてください。

2 「タスクの選択 ...」の「表示」にある「複数のディスプレイの設定」をクリックします。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

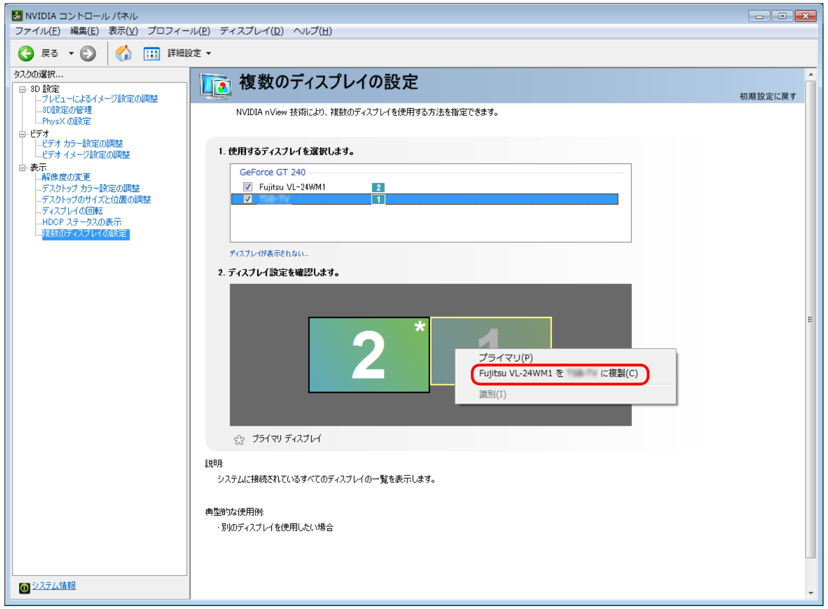
3 「1. 使用するディスプレイを選択します。」で、画面を表示する機器を ☑ に、画面を表示しない機器を ☐ にします。

●1 つの画面で表示する場合

「2. ディスプレイ設定を確認します。」に、「1」と表示されたディスプレイのイラストのみ表示されます。

●2 つの画面で表示する場合

1. 「2. ディスプレイ設定を確認します。」で「1」と表示されたイラストを右クリックし、「[ディスプレイの名称] を [HDMI 機器の名称] に複製」をクリックします。



「2. ディスプレイ設定を確認します。」の表示が変わります。



Point

- 「1 つの画面で表示する」から「2 つの画面で同時に表示する」設定に変更する場合
  左の一覧の「解像度の変更」をクリックして表示される設定画面で、解像度をお使いの機器でサポートしている値にし、リフレッシュレートを「60Hz」に設定してください。他の値にすると、画面が正常に表示されない場合があります。

4 「適用」をクリックします。

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従って操作してください。

5 「NVIDIA コントロールパネル」ウィンドウの をクリックします。

Point

- ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。状況に応じて次の操作を行ってください。

  何も表示されない場合

  何も操作しないでお待ちください。15 秒ぐらい待つと、表示先が 1 台目のディスプレイに戻ります。

  正常に表示されない場合

  ディスプレイのマニュアルでディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、次の方法で設定を変更してください。

  1. デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。
     「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。
  2. 「詳細設定」をクリックします。
  3. 「モニター」タブをクリックします。
  4. リフレッシュレートをディスプレイでサポートする走査周波数に設定し、「OK」をクリックします。
     画面にメッセージが表示された場合は、画面の指示に従って操作してください。

マルチモニター機能

このパソコンには、ディスプレイとテレビを使用して、2 つの画面で 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニター機能」があります。

マルチモニター機能をお使いになるうえでの注意

マルチモニター機能をお使いになる場合は、次の点に注意してください。

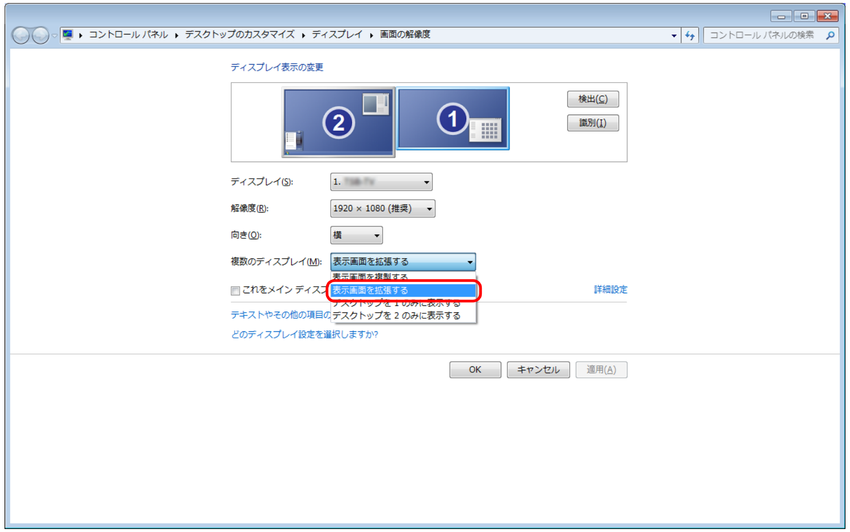
- マルチモニター機能をお使いになる場合は、「マルチモニター機能を設定する」の手順に従って操作してください。それ以外の手順では、正しく動作しないことがあります。
- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- マルチモニター機能を使用中は、次の点に注意してください。
  - ・2 つの画面にまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプターとセカンダリアダプターの設定を変更しないでください。
  - ・セカンダリアダプターのみに表示されているソフトウェアを起動中に、セカンダリアダプターの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよびWindowsの動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- 一部のスクリーンセーバーは、プライマリアダプターのみに表示されます。
- 解像度／発色数について
  - ・最大解像度は、接続したディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
  - ・プライマリアダプターとセカンダリアダプターで、別々の発色数を設定しないでください。

マルチモニター機能を設定する

1 **デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから「画面の解像度」をクリックします。**

「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

2 **「複数のディスプレイ」の ▾ をクリックし、「表示画面を拡張する」をクリックします。**



（画面は機種や状況により異なります）

3 **ディスプレイをメインディスプレイにする場合は、「これをメインディスプレイにする」の ☐ をクリックし、☑ にします。**

4 **「画面の解像度」ウィンドウの「適用」をクリックします。**

「適用」をクリックすると、画面にメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従って操作してください。

5 **「OK」をクリックします。**

テレビ画面の表示領域を調整する

テレビを接続した場合のみ

テレビとパソコンの画面表示の仕様が異なるため、テレビに表示される画面が表示領域よりもはみ出したり、小さく表示されたりすることがあります。このような場合は、テレビの表示領域を変更することで、正しく表示されるようになります。

次の手順でテレビ画面の表示領域を調整してください。

1 デスクトップの何もないところをクリックし、表示されるメニューから「NVIDIA コントロールパネル」をクリックします。

「NVIDIA コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

Point

- 「NVIDIA コントロールパネルビューの選択」ウィンドウが表示された場合は、「詳細設定」の をクリックして にし、「OK」をクリックしてください。

2 「タスクの選択 ...」の「表示」にある「デスクトップのサイズと位置の調整」をクリックします。

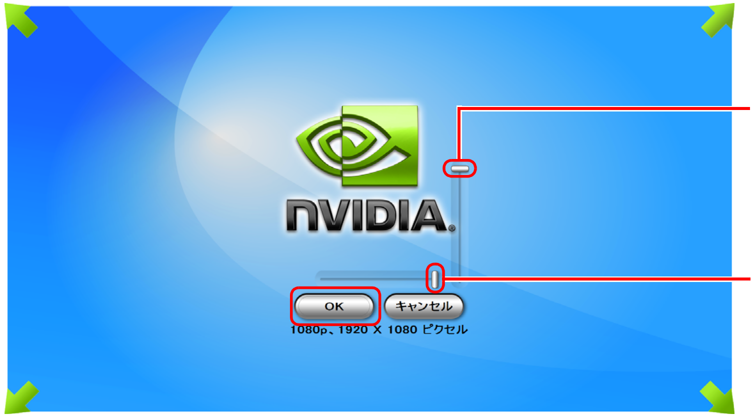


（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

3 「1. 変更するディスプレイを選択します。」でテレビのイラストをクリックし、「デスクトップのサイズ変更」をクリックします。

テレビに、表示領域を調整する画面が表示されます。

4 **つまみをドラッグして表示領域を調整し、「OK」をクリックします。**



5 **「NVIDIA コントロールパネル」ウィンドウの×をクリックします。**

アダプターの表示位置を変更する

ここでは使用する 2 つのアダプターの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

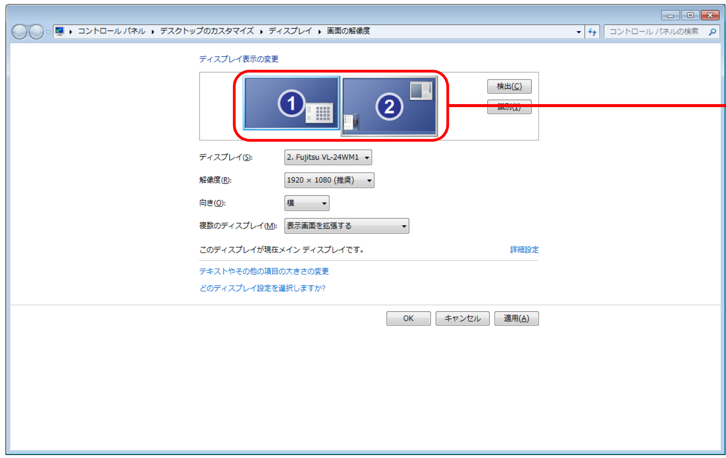
1 **デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから「画面の解像度」をクリックします。**

「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

2 **ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。**

●項目を左右にドラッグして移動させたい場合

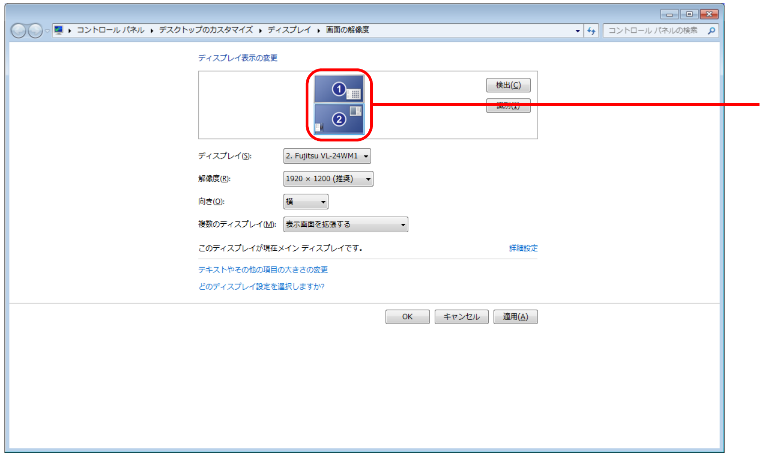
「1」「2」と表示されたディスプレイのイラストを横に並べます。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

●**項目を上下にドラッグして移動させたい場合**

「1」「2」と表示されたディスプレイのイラストを縦に並べます。



3 「適用」をクリックします。

4 「OK」をクリックします。

分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。

Point

- 手順 2 のイラストの配置により、ディスプレイ間の項目の移動方法が決定されます。ディスプレイ間で項目を左右にドラッグして移動させたい場合はイラストを横に並べて配置し、項目を上下にドラッグして移動させたい場合はイラストを縦に並べて配置します。ただし、イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。実際にはディスプレイが横に並んでいても、イラストは上下に並べて配置できます。

3. サウンド

再生時／録音時の音量を調節する

パソコンの音量を調節する場合は、キーボード、リモコン（テレビチューナー搭載機種のみ）、液晶ディスプレイ（CE シリーズのみ）、または画面の音量つまみで調節します。
ここでは、「音量ミキサー」ウィンドウや「サウンド」ウィンドウで音量を調節する方法を説明しています。

このパソコンの音量を調節するときは、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。

キーボードで音量を調節する操作については、『取扱説明書』－「取り扱い」－「音量」をご覧ください。

ソフトウェアごとに音量を調節する

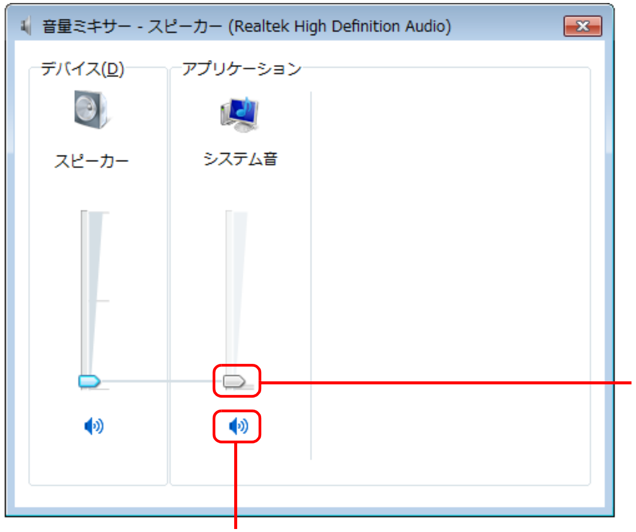
音が出るソフトウェアごとに音量を調節することができます。

1 音量を調節したいソフトウェアを起動します。

2 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「サウンド」の「システム音量の調整」をクリックします。

「音量ミキサー」ウィンドウが表示されます。

3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ
下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート
ここをクリックしてにすると音が消え、画面右下の通知領域の表示がに変わります。
もう一度クリックしてにすると元の音量に戻り、画面右下の通知領域の表示もに戻ります。

（画面は機種や状況により異なります）

・デバイス
このパソコンのスピーカーから出る音量です。「画面の音量つまみ」で設定した音量と同じです。
HDMI 出力端子に接続した HDMI 機器から音を出す場合は、「HDMI デバイス」と表示されます（HDMI 出力端子搭載機種のみ）。

・アプリケーション
起動しているソフトウェアごとに音量を調節できます。「デバイス」に設定した音量が最大値になります。

4 （閉じる）をクリックします。

「音量ミキサー」ウィンドウが閉じます。

再生や録音する機器ごとに音量を調節する

このパソコンで再生や録音をする機器（スピーカーやマイクなど）ごとに、音量を調節することができます。

■ 再生や録音する機器を選択する（CE シリーズのみ）

このパソコンで音声を再生したり録音したりするときに、音声の出力先を選択することができます。

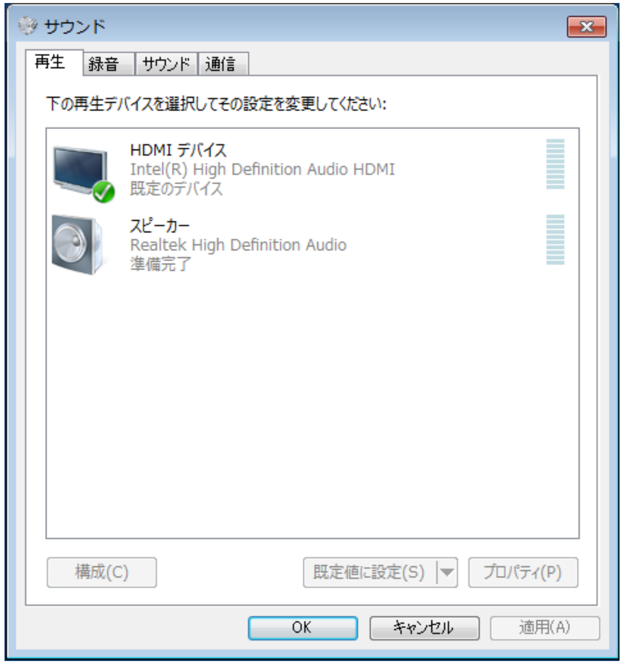
Point

- マイク端子やライン端子は、各機器が接続されている場合にのみ選択することができます。

1 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「サウンド」の「システムが出す音の変更」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

2 「再生」タブや「録音」タブで機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。



（画面は機種や状況により異なります）

選択した機器にチェックマークが付きます。

3 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

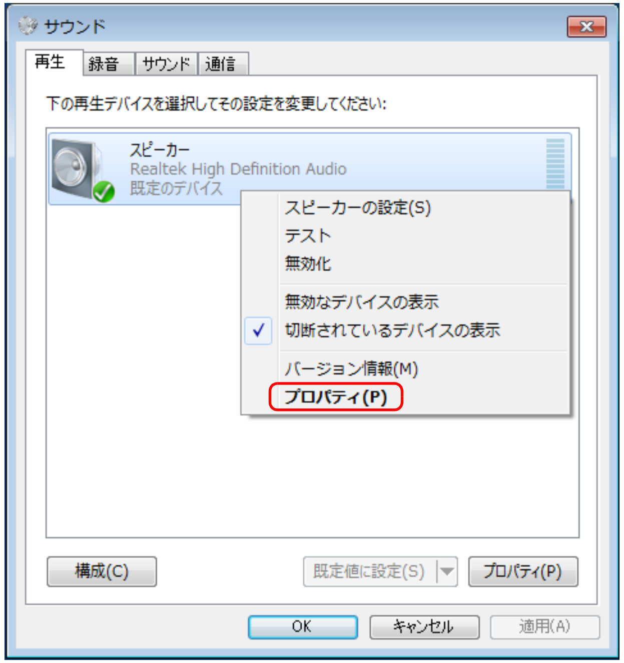
■ 再生する機器の音量を調節する

ここでは、例としてスピーカーの音量を調節する方法を説明します。

1 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「サウンド」の「システムが出す音の変更」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

2 「再生」タブの「スピーカー」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。

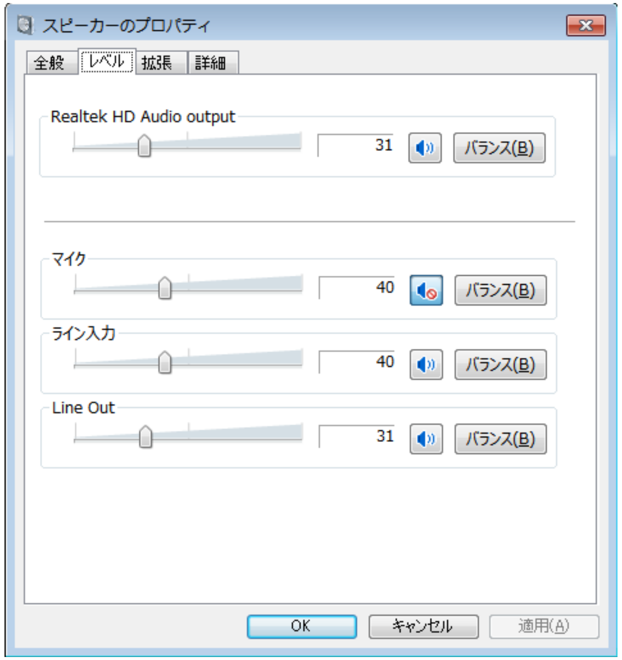


（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「レベル」タブをクリックします。

4 音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



・ ：スピーカーから音が聞こえます。
・ ：スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。
・「バランス」：左右の音量のバランスを調節できます。

5 「OK」をクリックします。

「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

6 「OK」をクリックします。

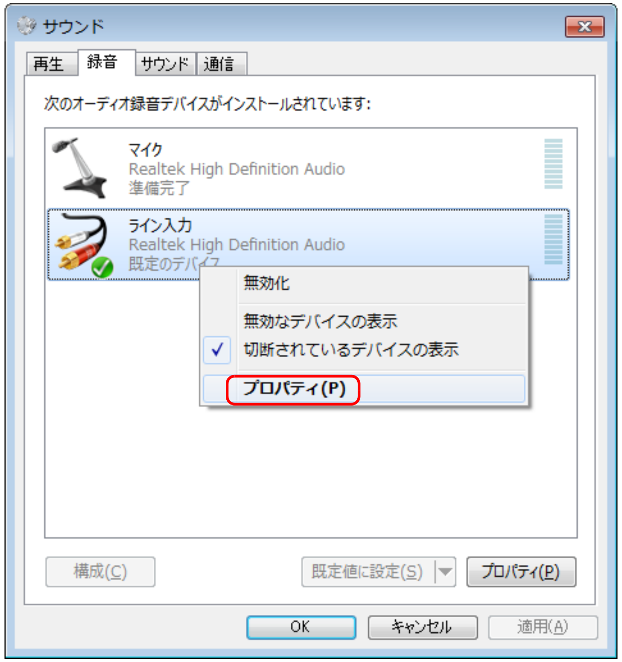
「サウンド」ウィンドウが閉じます。

■ 録音する機器の音量を調節する

1 **（スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「サウンド」の「システムが出す音の変更」をクリックします。**

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

2 **「録音」タブの「マイク」または「ライン入力」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。**

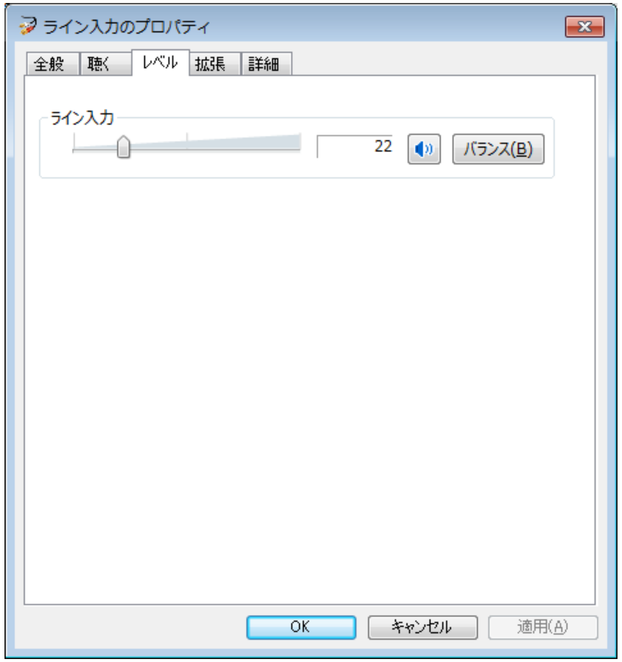


（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

「マイクのプロパティ」ウィンドウまたは「ライン入力のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 **「レベル」タブをクリックします。**

4 **音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。**



・ ：スピーカーから音が聞こえます。
・ ：スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。
・「バランス」：左右の音量のバランスを調節できます。

5 **「OK」をクリックします。**

「マイクのプロパティ」ウィンドウまたは「ライン入力のプロパティ」ウィンドウが閉じます。

6 **「OK」をクリックします。**

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

スピーカーの音質を調節する

F シリーズのみ

ここでは、MaxxAudio®（マックスオーディオ）を使った、スピーカーの音質調節について説明します。
MaxxAudio® は、音響心理テクノロジを使用して、低域・高域、ステレオ感の強調など、より臨場感にあふれるスピーカー特性の調節を実現できます。

重要

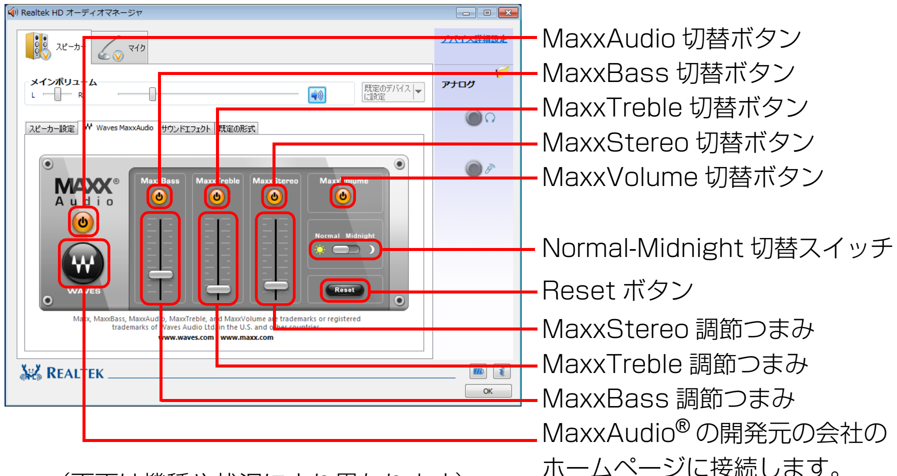
- MaxxAudio® の音質調節は、内蔵スピーカーのみ対象となります。ヘッドホン・ラインアウト兼用端子に接続した機器の音質調節はできません。

1 画面右下の通知領域にある をクリックし、表示される （Realtek HD オーディオマネージャ）をダブルクリックします。

「Realtek HD オーディオマネージャ」ウィンドウが表示されます。

2 「Waves MaxxAudio」タブをクリックします。

MaxxAudio® の設定を変更する画面が表示されます。



（画面は機種や状況により異なります）

3 各項目を調節して、スピーカーの音質を変更します。

 をクリックして、各項目の有効、無効を切り替えます。有効のときは 、無効のときは になります。 を上下にドラッグして、各項目の効果を調節します。調節つまみを上にドラッグすると効果が強くなり、下にドラッグすると効果が弱くなります。
その他の項目は、次のとおりです。

・Normal-Midnight 切替スイッチ
MaxxVolume™ の設定を切り替えます。
Normal（ノーマル）側にスライドすると、大きな音から小さな音まで聞きやすくなります。
Midnight（ミッドナイト）側にスライドすると、ピーク信号を抑える効果が Normal より強調されます。全体的に音量の変化が少なくなり、深夜など音量を大きくできないときに適しています。

・Reset（リセット）ボタン
MaxxAudio® の設定がご購入時の状態に戻ります。

Point

- 各調節つまみを上げすぎると、聞きづらい音質になることがあります。その場合は、Reset を押してください。MaxxAudio® の設定がご購入時の状態に戻ります。

4 「OK」をクリックして設定を保存します。

兼用端子の機能切り替え

F シリーズのみ

パソコン本体のヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子は、ご購入時はそれぞれ「ヘッドフォン」、「マイク入力」として機能します。設定を変更することにより、「ライン出力」、「ライン入力」として機能させることができます。
これらの設定を変更するには、次の手順を行ってください。

重要

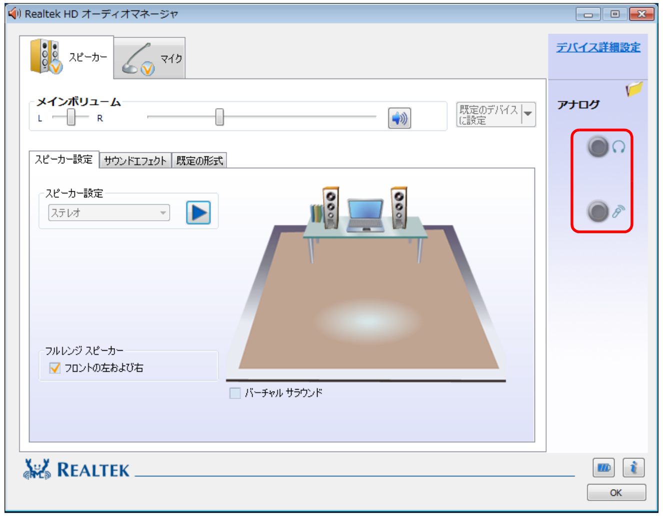
- 機能を切り替えたい端子に、あらかじめ外径 3.5mm のミニプラグに対応した機器を接続しておいてください。機器を接続していないときは、切り替えられません。
  ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の搭載箇所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。
- マイク・ラインイン兼用端子に機器を接続するときは、接続した機器の音量を小さくするか、出力を停止してください。

1 機能を切り替えたい端子に外径 3.5mm のミニプラグに対応した機器を接続します。

「Realtek HD オーディオマネージャ」ウィンドウが表示されます。

2 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にクリックします。

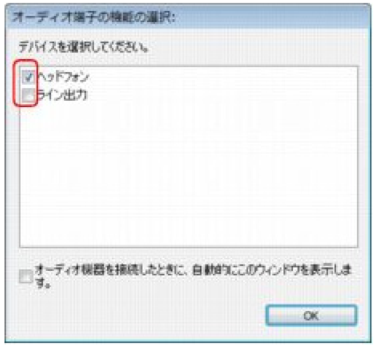
3 切り替えたい端子のアイコンをダブルクリックします。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

デバイスを選択するウィンドウが表示されます。

4 使用するデバイスを ☑ にします。



（画面はヘッドホン・ラインアウト兼用端子の設定画面です）

●ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の場合

・「ヘッドフォン」：ヘッドホン出力として動作します。内蔵スピーカーから音が出なくなります。

・「ライン出力」：ライン出力として動作します。内蔵スピーカーからも音が出ます。

●マイク・ラインイン兼用端子の場合

・「マイク入力」：マイク入力として動作します。

・「ライン入力」：ライン入力として動作します。

Point

▸ 機器を接続するとデバイスを選択するウィンドウが表示されるように設定する場合
デバイスを選択するウィンドウで「オーディオ機器を接続したときに、自動的にこのウィンドウを表示します。」の □ をクリックして ☑ にしてください。各端子に機器を接続すると、デバイスを選択するウィンドウが表示されるようになります。

5 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

4. 通信

LAN

ここでは、LAN（有線 LAN）を使うために必要となるものや LAN ケーブルの接続方法、ネットワークの設定方法について説明しています。
無線 LAN が搭載された機種をお使いの方は、無線 LAN を使用することができます。無線 LAN をお使いになる場合には、「無線 LAN」（→ P.56）をご覧ください。

重要

- ネットワーク設定時のご注意
  TCP/IP などのネットワークの設定は、有線 LAN と無線 LAN で異なります。お使いになる状況に合わせて、必要な設定を行ってください。
- 初めてインターネットに接続するときは必ずセキュリティ対策をしてください。
  このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、セキュリティの脆弱性が新たに見つかったり、悪質なコンピューターウイルスが出現している可能性があります。初めてインターネットに接続する場合は、マニュアルの手順に従って、パソコンを最新の状態にし、セキュリティ対策を行ってください。

必要なものを用意する

LAN を利用してインターネットに接続するには、次のような機器が必要です。

- ネットワーク機器
  ネットワーク接続の目的に合わせて、必要なものをご用意ください。ネットワーク機器には次のようなものがあります。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、お使いになるネットワークのスピードに合ったものをご用意ください。
  ・ダイヤルアップルーター
  ・ブロードバンドルーター
  ・ブロードバンドモデム
  ・ハブ
- LAN ケーブル
  ストレートタイプとクロスタイプがあります。また、お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。
- ネットワーク機器のマニュアル
  お使いになるネットワーク機器によって、接続や設定の方法が異なります。必ずネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。ケーブルテレビ（CATV）回線や、ADSL 回線などでインターネットに接続する場合は、プロバイダーや回線事業者から提供されるマニュアルもあわせてご覧ください。

LANケーブルを接続する

⚠警告

- 雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
  落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。
  落雷による感電、火災の原因となります。

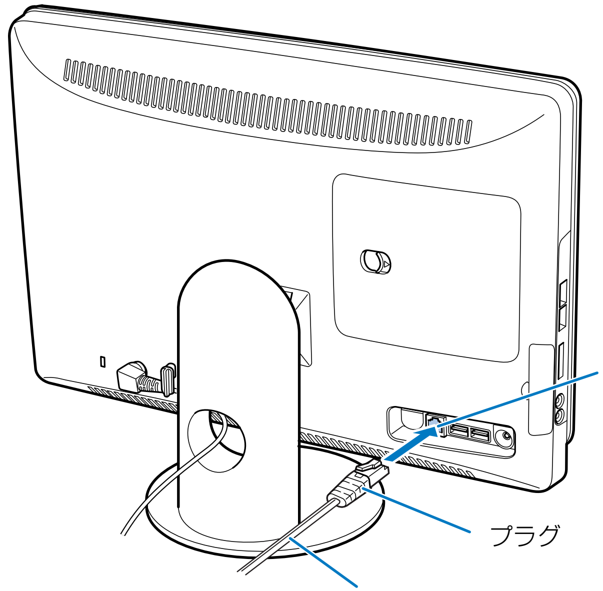
⚠注意

- LANコネクタに指などを入れないでください。
  感電の原因となることがあります。
- LANケーブルを接続する場合は、必ずLANコネクタに接続してください。
  接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

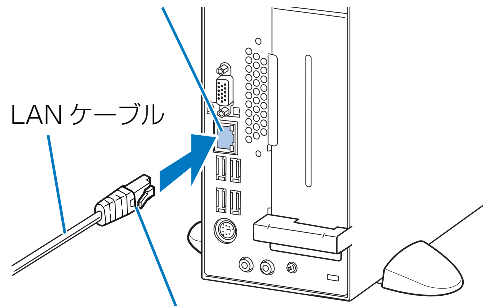
2 パソコン本体背面のLANコネクタに、LANケーブルを接続します。

●Fシリーズの場合



（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

●CEシリーズの場合



3 LANケーブルをネットワーク機器に接続します。

手順 2 で接続したケーブルのもう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続し、ネットワーク機器の電源を入れます。

4 パソコン本体の電源プラグをコンセントに差し込みます。

5 パソコン本体の電源を入れます。

続いてネットワークの設定をします。

Point

- LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
  なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスリープになるよう設定されています。前述のような不都合がある場合には、「電源オプション」ウィンドウで「コンピューターをスリープ状態にする」を、「なし」に設定してください。
- LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外すときは、プラグのツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

ネットワークの設定をする

ネットワークへは、「TCP/IP の設定」と「フルコンピューター名とワークグループの確認」を行うことにより接続することができます。

重要

- 無線 LAN を搭載している機種の場合
  すでに無線 LAN の設定をしている場合は、無線 LAN の設定と競合しないように気をつけてください。無線 LAN の設定と競合すると、正常に通信ができなくなります。
- 既存のネットワークに接続する場合
  すでにあるネットワークに接続する場合は、それぞれの設定内容について確認してください。

■ TCP/IP の設定

Point

- TCP/IP の設定を変更する場合は、Windows に「コンピューターの管理者」アカウントまたは「Administrators」グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 （スタート）▶「コントロールパネル」の順にクリックします。

2 「ネットワークとインターネット」の「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。

3 「ネットワークと共有センター」ウィンドウ左の「アダプターの設定の変更」をクリックします。

ネットワーク接続の一覧が表示されます。

4 一覧から、「ローカルエリア接続」を右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。

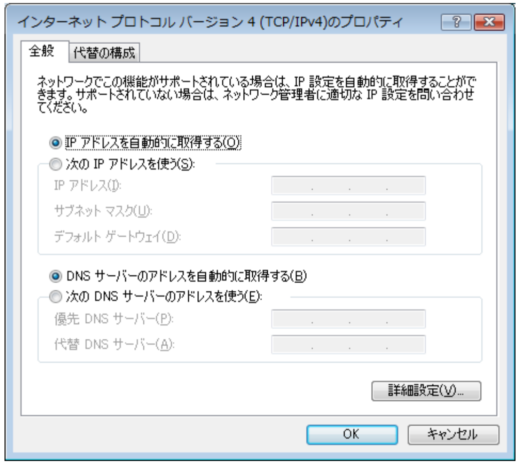
5 **「接続の方法」が「Broadcom NetLink(TM) Gigabit Ethernet」であることを確認します。**

Point

- 「接続の方法」が「Broadcom NetLink(TM) Gigabit Ethernet」以外の場合は、「キャンセル」をクリックし、別の接続を選択してください。

6 **「この接続は次の項目を使用します」の一覧から、「インターネット プロトコル バージョン 4（TCP/IPv4）」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。**

7 **IP アドレスの設定をします。**



（画面は機種や状況により異なります）

●ネットワーク上にブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーがある場合

1.「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が ◉ になっていることを確認します。
○ になっている場合は、○ をクリックして ◉ にします。

●ネットワーク上に DHCP サーバーがない場合

1.「次の IP アドレスを使う」の ○ をクリックして ◉ にします。
2.「IP アドレス」に IP アドレスを入力します。
例：192.168.0.2
3.「サブネットマスク」を入力します。
例：255.255.255.0

Point

- IP アドレスの重複にご注意ください。
ブロードバンドモデムやルーター、およびパソコン本体のそれぞれに IP アドレスを重複しないように設定してください。IP アドレスが重複すると、ネットワークによる通信ができません。

8 **「OK」をクリックします。**

9 **「閉じる」をクリックします。**

10 **「ネットワーク接続」ウィンドウの ✕ をクリックします。**

続いて、フルコンピューター名とワークグループを確認します。

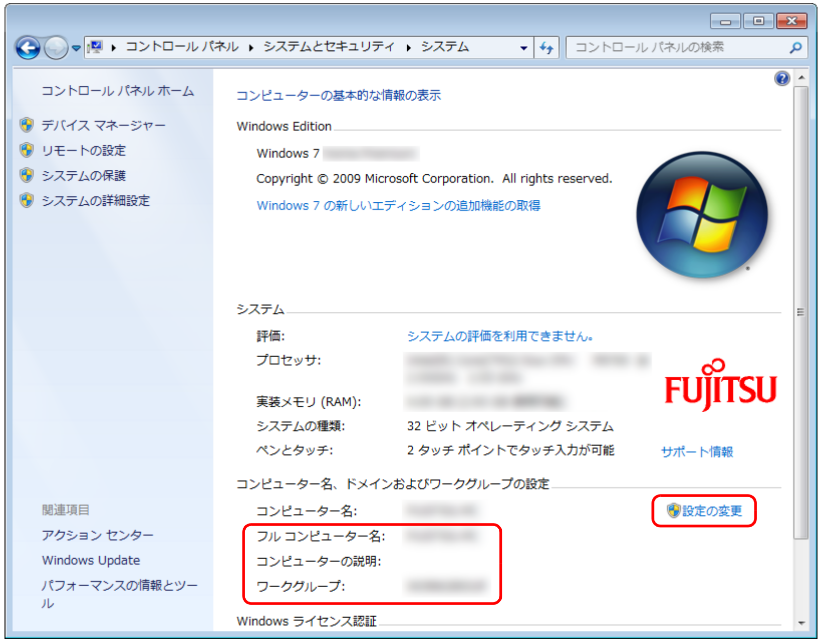
■ フルコンピューター名とワークグループの確認

Point

- フルコンピューター名、ワークグループを変更する場合は、Windowsに「コンピューターの管理者」アカウントまたは「Administrators」グループのメンバーとしてログオンしてください。

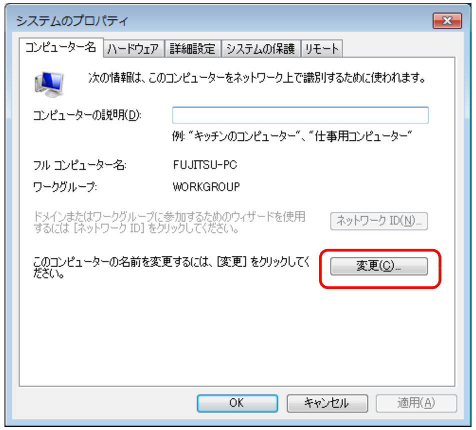
1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「システム」の順にクリックします。

2 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」の「フルコンピューター名」、「ワークグループ」を確認します。変更する場合は「設定の変更」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

3 「システムのプロパティ」ウィンドウで「変更」をクリックして、「フルコンピューター名」または「ワークグループ」を変更します。



● **フルコンピューター名**

ネットワーク上で、コンピューターを識別するための名前です。設定するときは、他のコンピューターと重複しないように、半角英数字 15 文字以内で名前を付けてください。機種名やパソコンの使用者名などをフルコンピューター名に設定すると、識別しやすくなります。

● **ワークグループ**

ネットワークにつながったパソコンの集まりを表します。複数のパソコンに共通のワークグループの名前を付けると、同じネットワークにつながっている「仲間」として、ネットワーク上でファイルやプリンターの共有が行えます。

ワークグループは、半角英数字 15 文字以内で好きな名前を付けることができます。通常、ネットワークを組むときは、各パソコンに同じワークグループを設定してください。

4 「OK」をクリックします。

再起動を確認するメッセージが表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

LANで困ったら

ここでは、LAN に接続するうえで起きたトラブルを「Plugfree NETWORK」の「ネットワーク診断」を使って解決する方法について説明しています。「ネットワーク診断」には次のような機能があります。

- 診断と対処
  ネットワーク接続の状態を診断し、トラブルがあった場合はトラブルを解決するための対処方法やヒントをお知らせします。
- 情報収集
  「ネットワーク診断」が診断時に収集したネットワークの情報を表示したり、その情報を保存することができます。
- ネットワーク関連項目や情報へのリンク
  Windows のコントロールパネルのネットワークの項目、「Internet Explorer」の設定など、ネットワーク接続に関する設定や情報へ「ネットワーク診断」から直接アクセスできます。

■「ネットワーク診断」を使う

1 **（スタート）▶「すべてのプログラム」▶「Plugfree NETWORK」▶「ネットワーク診断」の順にクリックします。**

「ネットワーク診断」が起動します。

2 **「ローカルエリア接続」をクリックします。**

ネットワーク接続を診断し、診断結果が表示されます。



（画面は機種や状況により異なります）

ネットワーク接続の診断の結果トラブルがあった場合、赤色の顔マークが表示されます。

1. 赤色の顔マーク左の診断結果を確認します。
2. 「対処方法はこちら」をクリックします。
   トラブルの対処方法またはヒントが表示されます。
3. 対処を行った後、「再診断」をクリックして診断を再実行します。

Point

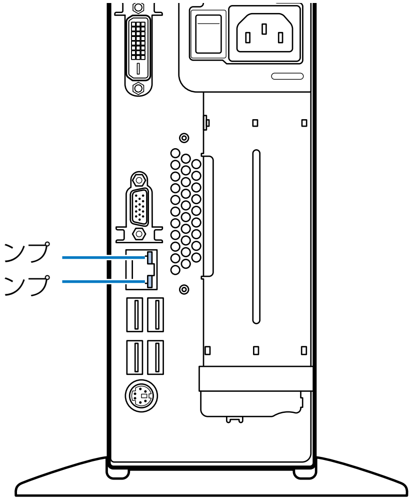
- 「再診断」で同じところで止まっても、診断結果や対処方法の表示内容が異なる場合があります。

以後トラブルが解決するか、または対処することがなくなるまで、表示に沿って確認、対処、再診断を行ってください。表示されているアイコンなどの意味については、「ヘルプ」をクリックしてご覧ください。

接続状態と接続速度

CE シリーズのみ

このパソコンでは、LAN コネクタの上下にあるランプの色で接続状態や接続速度を表示しています。



（イラストは機種や状況により異なります）

ランプの色と接続状態や接続速度は、次のとおりです。

	上側のランプ	下側のランプ
パソコンの電源が切れている場合	機種や状況により異なります	
10Mbps で接続	消灯	緑色に点滅
100Mbps で接続	緑色に点灯	緑色に点滅
1000Mbps で接続	黄色に点灯	緑色に点滅

LAN を利用して、別のパソコンから電源を制御する

ここでは、LAN による電源制御機能（Wakeup on LAN 機能）を有効にするための設定方法を説明しています。
LAN による電源制御機能を有効にすると、ネットワークでつながった別のパソコンから、このパソコンの電源を入れることができるようになります。

重要

- リモート電源オン機能は、有線LANによるネットワーク接続でのみ有効です。無線 LAN やその他のネットワーク（Bluetooth ワイヤレステクノロジー、IEEE1394 による接続など）ではお使いになれません。
- 電源プラグをコンセントから抜いた場合（F シリーズのみ）
  LAN による電源制御機能を有効にした状態で電源プラグをコンセントから抜いた場合は、コンセントに接続後いったん Windows を起動してください。コンセントに接続しただけでは、LAN による電源制御機能を使用できません。

■ F シリーズの場合

1. BIOS セットアップを起動します（→ P.70）。
2. 【←】キーまたは【→】キーを押して、「詳細」メニューを表示します。
3. 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「各種設定」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。
4. 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「LAN によるウェイクアップ」にカーソルを合わせ、【Space】キーまたは【−】キーを押して「使用する」にします。
5. 【Esc】キーを押します。
6. 設定を保存して BIOS セットアップを終了します（→ P.73）。
7. パソコンを起動します。

■ CE シリーズの場合

1. BIOS セットアップを起動します（→ P.70）。
2. 【←】キーまたは【→】キーを押して、「電源管理」メニューを表示します。
3. 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「LAN によるウェイクアップ」にカーソルを合わせ、【Space】キーまたは【−】キーを押して「使用する」にします。
4. 【Esc】キーを押します。
5. 設定を保存して BIOS セットアップを終了します（→ P.73）。
6. パソコンを起動します。

無線 LAN

無線 LAN 搭載機種のみ

無線 LAN でインターネットに接続する方法については、『取扱説明書』－「セットアップする」－「インターネットの設定をする」－「無線 LAN でインターネットに接続する」をご覧ください。

無線 LAN をお使いになるうえでの注意

ここでは、無線 LAN をお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

■ 無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

- お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線 LAN アクセスポイント（ワイヤレス LAN ステーション、ワイヤレスブロードバンドルーターなど）間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
  悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
  ・ID やパスワード又はクレジットカード番号などの個人情報
  ・メールの内容
  などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
  悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
  ・個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
  ・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
  ・傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
  ・コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
  などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN アクセスポイントやパソコンに搭載されている無線 LAN は、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みをもっています。
そのため、別途ご購入された無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品の、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。
しかし、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品は、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に添付されているマニュアルに従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。
セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

■ 電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、本製品の使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。
  ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前に本製品の使用許可について問い合わせをしてください。

■ 電波放射の人体への影響

このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

無線 LAN アンテナの場所については、『取扱説明書』 ─「各部の名称と働き」をご覧ください。

■ 無線 LAN による通信を行うための注意

- このパソコンは、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- 航空機内での使用は、各航空会社に事前にご確認ください。
- IEEE 802.11gとIEEE 802.11bが混在する環境では、IEEE 802.11gはIEEE 802.11b との互換性をとるため、IEEE 802.11g 本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g と IEEE 802.11b を別の無線 LAN ネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上空けてお使いください。
- このパソコンの使用中、特に無線LANで通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。
  また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
  無線 LAN アンテナの場所については、『取扱説明書』 ─「各部の名称と働き」をご覧ください。
- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
  ・このパソコンと受信機の距離を離す
  ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
  ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任は負いません。

- 近くに他のチャンネルを使用している無線LAN機器がある場合、干渉により本来の性能が出ない場合があります。この場合、他のチャンネルを使用している無線LAN機器と使用しているチャンネルの間隔を空けるように変更して、干渉の影響が最小となるチャンネルでお使いください。それでも解決しない場合は、他のチャンネルを使用している無線LAN機器から3m以上離して干渉の影響が最小となる場所でお使いください。

■ 良好な通信を行うために

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、次のとおりです。

無線LANの種類	推奨する最大通信距離
IEEE 802.11b、IEEE 802.11g準拠	見通し半径25m以内
IEEE 802.11n準拠	見通し半径50m以内

ただし、無線LANの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用するチャンネルや使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- このパソコンの無線LANは、Bluetoothワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯（2.4GHz帯）を使用するため、パソコン本体の近辺でBluetoothワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。
- 次の対策を行うと、Bluetoothワイヤレステクノロジー機器との電波の干渉を防ぐことができる場合があります。
  - ・Bluetoothワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は10m以上離して使用する。
  - ・Bluetoothワイヤレステクノロジー機器の電源を切る。
    （Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を内蔵している場合や、単独で電源を切れないものを除く）
  - ・Bluetoothワイヤレステクノロジー機器の電波を、ユーティリティを使って停止する（Bluetoothワイヤレステクノロジー機器を内蔵している場合）。

無線 LAN の仕様

お使いの機種によって、無線 LAN の仕様が異なります。お使いの機種に搭載されている無線 LAN の種類は、「仕様確認表」（→ P.5）でご確認いただけます。

■ IEEE 802.11b/g/n 準拠（タイプ 1）の場合

項目	仕様
ネットワーク種類	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠（Wi-Fi® 準拠）[注 1]
転送レート	DS-SS：11 ～ 1Mbps（自動切り替え） OFDM：300 ～ 6Mbps （自動切り替え、40MHz 帯域幅システム／ HT40 時）、 130 ～ 6Mbps （自動切り替え、20MHz 帯域幅システム／ HT20 時）、 54 ～ 6Mbps（自動切り替え、レガシーモード時）
使用周波数	2,400MHz ～ 2,483.5MHz
チャンネル数 [注 2]	IEEE 802.11b 準拠：1 ～ 13ch（DS-SS）（そのうち 1ch を使用） IEEE 802.11g 準拠：1 ～ 13ch（OFDM）（そのうち 1ch を使用） IEEE 802.11n 準拠：20MHz 帯域幅システム（HT20）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用） 2.4GHz モード 1 ～ 13ch 40MHz 帯域幅システム（HT40）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用）[注 3] [注 4] 2.4GHz モード [1、5] / [2、6] / [3、7] / [4、8] / [5、9] / [6、10] / [7、11] ch [注 5]
セキュリティ [注 6]	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEP キー）：64/128 ビット） [注 7] WPA- パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2- パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA- エンタープライズ（WPA）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） WPA2- エンタープライズ（WPA2）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） IEEE 802.1X（TLS/PEAP）
無線 LAN の最大接続推奨台数（アドホック通信時）	10 台以下 [注 8]

注 1：Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注 2：このパソコンに搭載されている無線 LAN の IEEE 802.11b では、無線チャンネルとしてチャンネル 1 ～ 13 を使用しています。無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを、1 ～ 13 の間で設定してください。設定方法については、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

注 3：IEEE 802.11n では 40MHz 帯域幅システム（HT40）に対応しています。HT40 を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。

注 4：IEEE 802.11n では無線 LAN アクセスポイントの設定において HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。

注 5：［m、n］は、2 つの m および n チャンネルの周波数帯が 1 つにまとまったチャンネルを表します。

注 6：IEEE 802.11n で接続するためには、パスフレーズ（PSK）を AES に設定する必要があります。

注 7：WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット /104 ビットです。

注 8：IEEE 802.11n ではアドホック通信はできません。アドホック通信時は自動的にレガシーモード（IEEE 802.11b/IEEE 802.11g）で接続されます。また、お使いになる環境によっては接続可能台数が減少することがあります。

■ IEEE 802.11b/g/n 準拠（タイプ 2）の場合

項目	仕様
ネットワーク種類	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、 IEEE 802.11n 準拠、（Wi-Fi® 準拠）[注 1]
転送レート	DS-SS：11 ～ 1Mbps（自動切り替え） OFDM：150 ～ 6Mbps （自動切り替え、40MHz 帯域幅システム／ HT40 時）、 65 ～ 6Mbps （自動切り替え、20MHz 帯域幅システム／ HT20 時）、 54 ～ 6Mbps（自動切り替え、レガシーモード時）
使用周波数	2,400MHz ～ 2,483.5MHz
チャンネル数 [注 2]	IEEE 802.11b 準拠：1 ～ 13ch（DS-SS）（そのうち 1ch を使用） IEEE 802.11g 準拠：1 ～ 13ch（OFDM）（そのうち 1ch を使用） IEEE 802.11n 準拠：20MHz 帯域幅システム（HT20）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用） 2.4GHz モード 1 ～ 13ch 40MHz 帯域幅システム（HT40）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用）[注 3][注 4] 2.4GHz モード ［1、5］/［2、6］/［3、7］/［4、8］/［5、9］/［6、10］/［7、11］ch [注 5]
セキュリティ	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEP キー）：64/128 ビット）[注 6] WPA- パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2- パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA- エンタープライズ（WPA）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） WPA2- エンタープライズ（WPA2）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） IEEE 802.1X（TLS/PEAP）
無線 LAN の最大接続推奨台数（アドホック通信時）	10 台以下 [注 7]

注 1：Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注 2：このパソコンに搭載されている無線 LAN の IEEE 802.11b では、無線チャンネルとしてチャンネル 1 ～ 13 を使用しています。
無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを、1 ～ 13 の間で設定してください。設定方法については、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

注 3：IEEE 802.11n では 40MHz 帯域幅システム（HT40）に対応しています。HT40 を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。

注 4：IEEE 802.11n では無線 LAN アクセスポイントの設定において HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。

注 5：［m、n］は、2 つの m および n チャンネルの周波数帯が 1 つにまとまったチャンネルを表します。

注 6：WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット /104 ビットです。

注 7：IEEE 802.11n ではアドホック通信はできません。アドホック通信時は自動的にレガシーモード（IEEE 802.11b/IEEE 802.11g）で接続されます。また、お使いになる環境によっては接続可能台数が減少することがあります。

5. スリープ／休止状態

スリープ／休止状態とは

Windows の省電力機能を使用すると、パソコンを待機状態にしているときに消費電力を抑えることができます。
ここでは、省電力機能のうち、「スリープ」と「休止状態」について説明しています。ご購入時は「スリープ（ハイブリッドスリープが有効）」に設定されています。

スリープ （ハイブリッドスリープが無効）

メモリ内のプログラムやデータを、システム RAM（メモリ）に保存してパソコン本体の動作を中断させます。このとき、F シリーズの場合はパソコン本体の電源ボタンの点灯が点滅に変わります。CE シリーズの場合は、パソコン本体の電源ランプがオレンジ色に点灯します。
スリープ中は、メインスイッチをオフにしたり（CE シリーズのみ）、電源プラグをコンセントから抜かないでください。電源が供給されなくなるため、システム RAM（メモリ）に保存しているプログラムやデータが失われます。

スリープ （ハイブリッドスリープが有効）

メモリ内のプログラムやデータを、システム RAM（メモリ）とハードディスクに保存してパソコン本体の動作を中断させます。このとき、F シリーズの場合はパソコン本体の電源ボタンの点灯が点滅に変わります。CE シリーズの場合は、パソコン本体の電源ランプがオレンジ色に点灯します。
スリープ中に電源が切れた場合は、ハードディスクからデータを読み出します。そのため、スリープ中にメインスイッチをオフにしたり（CE シリーズのみ）、電源プラグがコンセントから抜けても、元の状態に復旧することができます。電源が切れた場合は、パソコン本体の電源ボタンや電源ランプは消灯します。

休止状態

メモリ内のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、パソコン本体の電源を切ります。このとき、パソコン本体の電源ボタン（F シリーズの場合）や電源ランプ（CE シリーズの場合）は消灯します。
電源ボタンや電源ランプの状態は、電源を切った状態と同じですが、休止状態のときは機器の構成を変えないでください。

重要

- 休止状態について
  ご購入時は、（スタート）▶ シャットダウン ▷ の ▷ の順にクリックして表示されるメニューに「休止状態」が表示されません。
  このメニューに表示する場合は、ハイブリッドスリープを無効にする必要があります。設定を変更する方法は、Windows のヘルプをご覧ください。
  電源ボタンを押したときに休止状態にする場合は、「電源オプション」ウィンドウで「電源ボタンを押したときの動作」を「休止状態」にしてください（F/G70T、F/G70N、F/G67N、F/G50T を除く）。

スリープ／休止状態にするうえでの注意

ここでは、省電力機能をお使いになるときに気をつけていただきたいことについて説明しています。スリープにする方法については、『取扱説明書』－「取り扱い」－「電源を入れる／切る」－「スリープにする／復帰させる」をご覧ください。

- パソコンが次の状態の場合は、省電力状態にしないでください。省電力機能が正しく働かなかったり、パソコンが正常に動作しないことがあります。
  - ・Windows の起動途中（パソコン本体の電源を入れてから画面が完全に表示されるまで）
  - ・ハードディスク／ CD アクセスランプの点灯中
    ハードディスクの動作中やディスクの再生中は、省電力状態にならないことがあります。
  - ・動画の録画中や音楽の録音中
  - ・ディスクにデータを書き込み中
  - ・ゲーム、音声認識ソフトの使用中
  - ・通信中
  - ・マウスの操作中
- LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中は、省電力状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
- ネットワークの設定によっては、スリープ中に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスの有効期限が切れると、パソコン本体がスリープから元の状態に戻ることがあります。
  この場合は、IP アドレスの有効期間を延長するか、DHCP の使用を中止して固定 IP をお使いください。
- 次のソフトウェアをお使いの場合は、省電力状態になりません。
  - ・「WinDVD」で DVD-VIDEO や Blu-ray Disc（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）の再生中
  - ・「DigitalTVbox」でテレビを見たり録画しているとき（F/G90D、F/G90N、F/G87N のみ）
  - ・「G-GUIDE」でテレビ番組表をダウンロードしているとき（F/G90D、F/G90N、F/G87N のみ）
- 省電力状態にした後は、すぐに元の状態に戻さないでください。必ず、10 秒以上たってから元の状態に戻すようにしてください。

スリープ／休止状態の設定変更

ご購入時には、一定時間パソコンを操作しないと自動的に「スリープ」になるように設定されています。
ここでは、省電力機能が働くまでの時間などを変更する方法を説明しています。
ディスクにデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

Point

- テレビを見ているときは、「電源オプション」の設定を変更しないでください（テレビチューナー搭載機種のみ）。

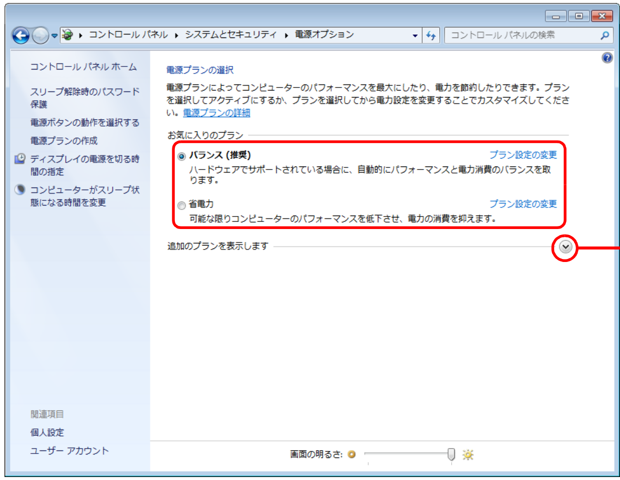
電源プランを変更する

ご購入時は「バランス」、「省電力」、「高パフォーマンス」が用意されています。

1 **（スタート）▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「電源オプション」の順にクリックします。**

「電源オプション」ウィンドウが表示されます。

2 **お使いになる状況に適した電源プランの ◎ をクリックして ◉ にします。**



「高パフォーマンス」を選択する場合は、「追加のプランを表示します」の をクリックして「高パフォーマンス」を表示させます。

（画面は機種や状況により異なります）

3 **をクリックします。**

なお、各電源プランにある「プラン設定の変更」をクリックすると、各プランの設定を変更することができます。

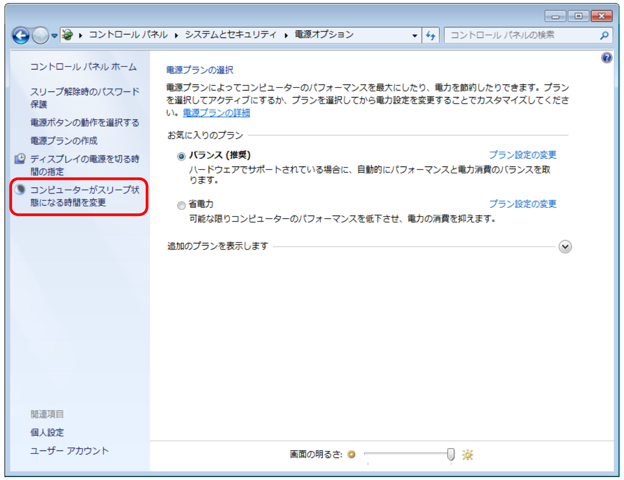
スリープになるまでの時間を変更する

スリープになるまでの時間は、次の手順で変更することができます。

1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「電源オプション」の順にクリックします。

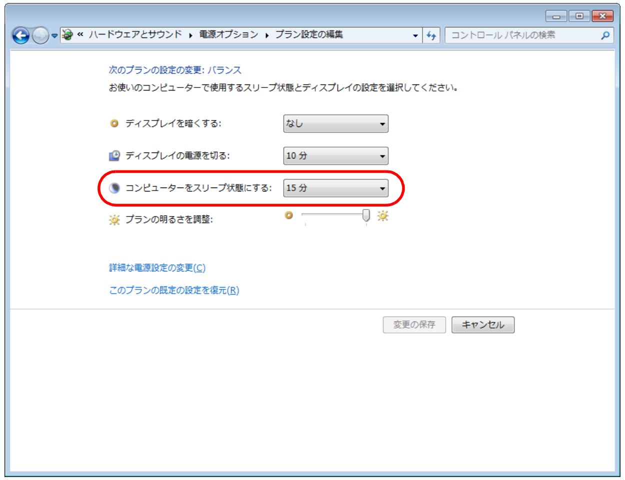
「電源オプション」ウィンドウが表示されます。

2 「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

3 「コンピューターをスリープ状態にする」の設定を変更します。



4 「変更の保存」をクリックします。

Point

- 変更した設定を元に戻す場合は、次の手順で操作してください。
  1. 「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。
  2. 「このプランの既定の設定を復元する」をクリックします。
  3. 「はい」をクリックします。
  4. ✕ をクリックします。

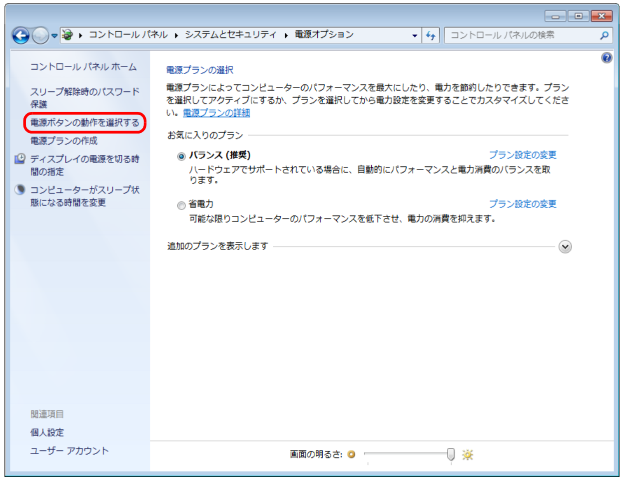
電源ボタンやスリープボタンを押したときの動作を変更する

パソコン本体の⏻（電源）マークに触れたときや電源ボタンを押したとき、キーボードのパソコン電源ボタンやスタンバイボタンを押したときに働く省電力機能は、次の手順で変更することができます。

1 **（スタート）▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「電源オプション」の順にクリックします。**

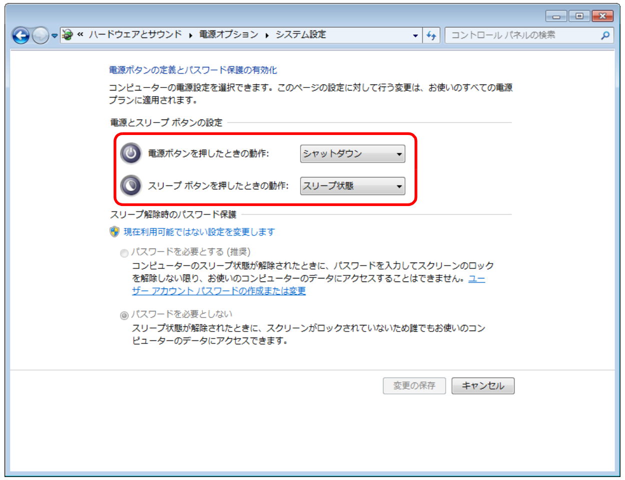
「電源オプション」ウィンドウが表示されます。

2 **「電源オプション」ウィンドウ左の「電源ボタンの動作を選択する」をクリックします。**



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

3 **電源ボタンやスリープボタンの項目を変更します。**



Point

- ワイヤレスキーボードをお使いの場合
  「電源ボタンを押したときの動作」の下に「スリープボタンを押したときの動作」が表示されますが、このパソコンにはスリープボタンがないため、この設定は無効になります。
- パソコンがスリープから復帰するときに、あらかじめ Windows に設定してあるパスワードの入力を必須とする設定にすることで、このパソコンのセキュリティを高めることができます。ただし、この設定にすると、スリープ中に録画予約した時刻になった場合も、パスワードの入力が必要になるため、スリープから復帰して予約録画を行うことができなくなります（テレビチューナー搭載機種のみ）。
  1.「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
  2.「パスワードを必要とする（推奨）」の ◯ をクリックし、◉ にします。

4 **「変更の保存」をクリックします。**

ソフトウェアをインストール／アンインストールするうえでの注意

このパソコンには、あらかじめたくさんのソフトウェアがインストールされています。お使いいただくうちに、インストールされていたソフトウェアを削除したがもう一度使いたくなったり、ソフトウェアの動きがおかしくなったりした場合には、ハードディスクのリカバリ領域や、「トラブル解決ナビ＆ソフトウェアディスク１」などからソフトウェアをインストールする必要があります。

ソフトウェアをインストール／アンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをインストールする前には、必ずソフトウェアのマニュアルなどを読んで、インストールの方法を確認する
- インストールし直す場合は、元のソフトウェアを削除する
- 管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンする
  ユーザーアカウントの種類が、「標準アカウント」、「Guest アカウント」の場合はソフトウェアの削除ができません。管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンしてください。
  ユーザーアカウントの種類は、次の手順で確認できます。
  1. （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」の順にクリックします。
  2. 「ユーザーアカウント」をクリックします。
     「ユーザーアカウント」ウィンドウが表示されます。
  3. 画面右のアカウント名の下に表示されている、アカウントの種類を確認します。
- 起動しているソフトウェアをすべて終了する
  他のソフトウェアが起動していると、エラーが発生する場合があります。ソフトウェアの削除をする前に、次の作業を行ってください。
  ・起動しているソフトウェアをすべて終了する
  ・タスクバーに常駐するタイプのソフトウェアをすべて終了する
  ・スクリーンセーバーを「なし」に設定する
  1. （スタート）▶「コントロールパネル」▶「デスクトップのカスタマイズ」の順にクリックします。
  2. 「個人設定」の「スクリーンセーバーの変更」をクリックします。
  3. 「スクリーンセーバー」を「（なし）」にして、「OK」をクリックします。
- 共有ファイルは削除しない
  ソフトウェアの削除中に、「共有ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されることがあります。
  共有ファイルは削除しないことをお勧めします。共有ファイルを削除すると、インストールされている他のソフトウェアが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

インストール

搭載ソフトウェアを 「ソフトウェアディスク検索」 でインストールする

ハードディスクのリカバリ領域や、「トラブル解決ナビ＆ソフトウェアディスク１」、ご自身で作成した「ソフトウェアディスク２」に収録されているソフトウェアは、「ソフトウェアディスク検索」からインストールすることができます。

1 「ソフトウェアディスク検索」を起動します。

●ハードディスクのリカバリ領域からソフトウェアを探す場合

（スタート）▶「すべてのプログラム」▶「ソフトウェアディスク検索」▶「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク）」の順にクリックします。

●「トラブル解決ナビ＆ソフトウェアディスク１」や「ソフトウェアディスク２」からソフトウェアを探す場合

「トラブル解決ナビ＆ソフトウェアディスク１」や、「ソフトウェアディスク２」をセットします。

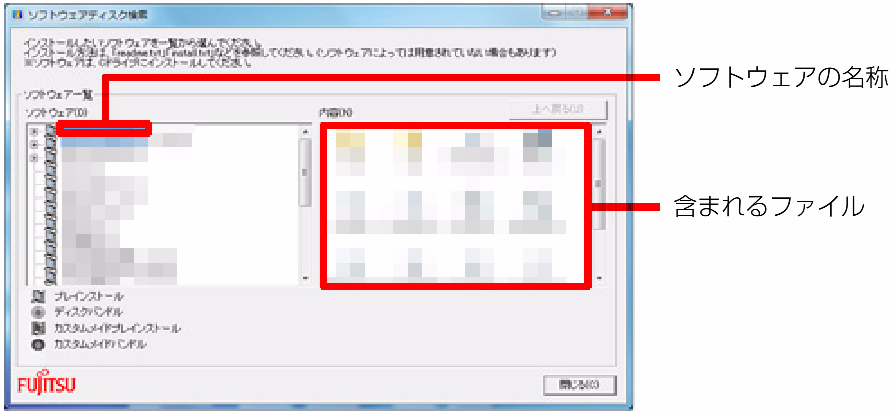
（スタート）▶「すべてのプログラム」▶「ソフトウェアディスク検索」▶「ソフトウェアディスク検索（DVD）」の順にクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

3 「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

4 インストールするソフトウェアの名称をクリックしてインストールします。

ソフトウェアの名称をクリックすると、ソフトウェアに含まれるファイルが画面右側に表示されます。



（画面は機種や状況により異なります）

5 ソフトウェアのインストール方法は、各ソフトウェアによって異なります。それぞれの「readme.txt」、「install.txt」などでインストール方法を確認してください。

「Office 2007」をインストールする

「Office 2007」搭載機種および「Office 2007 with PowerPoint」搭載機種をお使いの方は、添付のディスクから次のディスクを用意してインストールしてください。

- 「Office Personal 2007」または「Office Professional 2007」
- 「Office PowerPoint 2007」

インストール中にプロダクトキーとライセンス認証が必要になります。認証手順についてはパッケージに同梱されているマニュアルをご覧ください。

「トラブル解決ナビ&ソフトウェアディスク 1」からドライバーをインストールする

サウンドの再生や画面表示などが正常に行われないとき、ドライバーを更新すると問題が解決できる場合があります。添付の「トラブル解決ナビ&ソフトウェアディスク 1」に格納されているドライバーの場合、現在のドライバーをアンインストールして「トラブル解決ナビ&ソフトウェアディスク 1」からインストールし直すことで問題が解決できることがあります。

ドライバーの削除や、再インストール手順については、各ドライバーのフォルダー内にある「readme.txt」「install.txt」などのファイルをご覧ください。

ドライバーの格納されているフォルダーは、次の手順でご確認ください。

1 **「トラブル解決ナビ&ソフトウェアディスク 1」を CD/DVD ドライブにセットし、「自動再生」ウィンドウが表示されたら、「DRVCDSRC.exe 実行」をクリックします。**

「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されます。

2 **「機種名」欄の右側の をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名(品名)をクリックします。**

3 **「種別」欄の右側の をクリックし、表示されたリストから更新したいドライバーの種類をクリックします。**

「ソフトウェア一覧」に、選択した種別のドライバーが表示されます。

4 **「ソフトウェア一覧」から更新したいドライバーをクリックします。**

選択したドライバーの格納されているフォルダーの内容が表示されます。

Point

- インターネットに接続してドライバーを更新する
  各ドライバーは、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。ご購入時に添付されているものよりも新しいバージョンのドライバーがインターネット上で公開されている場合があります。
  - ・「アップデートナビ」で最新のドライバーを確認する
    お使いのパソコンに搭載されているドライバーなどの最新情報は、「アップデートナビ」で確認することができます。更新情報の確認後、そのままインストールすることもできるので便利です。
  - ・ホームページで最新のドライバーを確認する
    ドライバーなどの最新情報は、サポートページ(http://azby.fmworld.net/support/)の「ダウンロード」をご覧ください。
- このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについて
  プリンターなど、このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについては、お使いの周辺機器のマニュアルをご覧ください。

アンインストール

ソフトウェアのアンインストール機能を使う

Windows に対応したソフトウェアには、アンインストール機能（ソフトウェアを削除する機能）が用意されているものがあります。ソフトウェアによって操作方法が異なります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

「プログラムのアンインストール」 機能を使う

「コントロールパネル」にある「プログラムのアンインストール」機能で、ソフトウェアを削除できます。削除方法は次のとおりです。

1 起動しているソフトウェアをすべて終了します。

2 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「プログラム」の「プログラムのアンインストール」の順にクリックします。

3 一覧から削除したい項目をクリックします。

4 「アンインストールと変更」（または「アンインストール」）をクリックし、画面の指示に従ってソフトウェアを削除します。

5 ソフトウェアの削除が終了したら、「プログラムと機能」ウィンドウで、をクリックします。

Point

- 「プログラムのアンインストール」機能で削除できないソフトウェアについては、ソフトウェアのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。
- 「いくつかのファイルは削除されませんでした」と表示されても、削除が完了していれば通常問題ありません。

ソフトウェアを削除した後に

■ 削除したソフトウェア名がメニューに残った場合

削除しても、（スタート）▶「すべてのプログラム」で表示されるメニューの中に削除したソフトウェア名が残り、ポイントすると「（なし）」と表示される場合があります。ソフトウェア名を右クリックし、表示されるメニューから「削除」をクリックして、「はい」をクリックするとメニューから削除できます。

■ パソコンを起動するたびにエラーが表示されるときは

ソフトウェアを削除しても、「スタートアップ」フォルダーに、そのソフトウェアのショートカットアイコンが登録されたままになっていると、「ショートカットエラー」というメッセージが表示されることがあります。

次の手順で、「スタートアップ」フォルダーから、該当するショートカットアイコンを削除してください。

1 （スタート）をクリックします。

2 「すべてのプログラム」を右クリックし、表示されるメニューから「開く - All Users」をクリックします。

「スタート メニュー」ウィンドウが表示されます。

3 （プログラム）をクリックします。

「プログラム」ウィンドウが表示されます。

4 「プログラム」ウィンドウの（スタートアップ）をクリックします。

登録されているソフトウェアの一覧が表示されます。

5 削除したいソフトウェアのショートカットアイコンを右クリックし、表示されるメニューから、「削除」をクリックします。

7. BIOS の設定

BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンの環境を設定するためのプログラムです。パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。
BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが利用できるように、パソコンにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- 電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたとき

重要

- BIOS セットアップの設定項目については、BIOS セットアップ画面の「項目ヘルプ」をご覧ください。

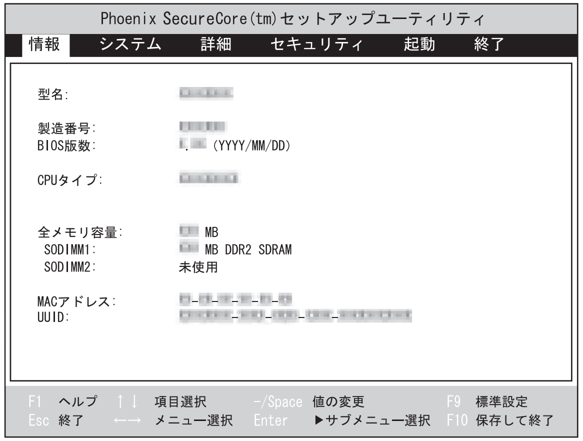
BIOS セットアップを起動する

1 パソコン本体の電源を入れます。

2 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に次のメッセージが表示されている間に【F2】キーを押します。

・F シリーズの場合は、「マウスをクリックするか、〈Enter〉を押してください。」というメッセージが表示されます。
・CE シリーズの場合は、「[F2] BIOS セットアップ , [F12] 起動メニュー」というメッセージが表示されます。

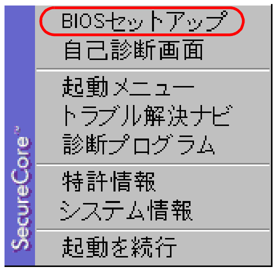
BIOS セットアップ画面が表示されます。



（画面は機種や状況により異なります）

Point

- Windowsの起動が開始してしまうと、BIOSセットアップを始められません。
  Windowsが完全に起動するのを待ってから、電源を入れ直してください。
- CE シリーズの場合、「[F2] BIOS セットアップ , [F12] 起動メニュー」の表示時間が短いときや表示されないときは、電源を入れた後、BIOS セットアップ画面が表示されるまで【F2】キーを数回押してください。
- 手順 2 で【F12】キーを押すと、起動するドライブを選択することができます。
- F シリーズの場合
  画面の下に「マウスをクリックするか、〈Enter〉を押してください。」と表示されている間に、【Enter】キーを押すと、ポップアップメニューが表示されます。
  メッセージが表示されている間に「BIOS セットアップ」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押しても BIOS セットアップ画面が表示されます。



  また、「起動メニュー」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、起動するドライブを選択することができます。

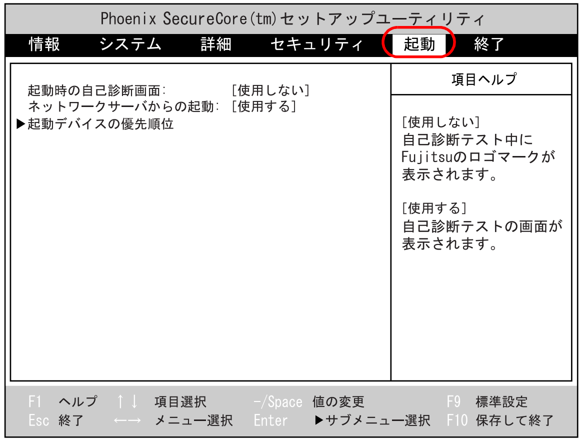
設定を変更する

設定の変更はキーボードで行います。

重要

- BIOS セットアップの設定は正確に行ってください。
  設定を間違えると、パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻してパソコンを再起動してください。

1 【←】キーまたは【→】キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。



（画面は機種や状況により異なります）

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。

「▶」の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
「▶」の付いている項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

3 【Space】キーまたは【－】キーを押して、設定を変更します。

項目の中には、数値を入力するものもあります。
画面の右に、各設定値の説明が表示されます。参考にしてください。
さらに他のメニューの設定を変更したいときは、手順 1 から繰り返します。
サブメニューを表示していた場合は、【Esc】キーを押すと 1 つ前の画面に戻ります。

BIOS セットアップを終了するときは、「BIOS セットアップを終了する」（→ P.73）をご覧ください。

■ 設定時に使う各キーの役割

設定時によく使用するキーは、次のとおりです。

- 【↑】キー、【↓】キー
  設定する項目にカーソルを移動します。
- 【←】キー、【→】キー
  メニューを切り替えます。
- 【Enter】キー
  「▶」印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。
  設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
- 【Space】キー
  キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーのことです。各項目の設定値を変更します。

この他、使用するキーの案内が画面に表示されます。

変更内容を取り消す

■ F シリーズの場合

設定した内容を取り消すには、CMOS RAM に保存してある変更前の設定値を読み込みます。

1 【←】キーまたは【→】キーを押して「終了」にカーソルを合わせます。

「終了」メニューが表示されます。サブメニューを表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ～ 3 回押してください。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「変更前の値を読み込む」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

「変更前の値を読み込みますか？」というメッセージが表示されます。

3 【←】キーまたは【→】キーを押して、「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

Point

- 設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了する
  1. 「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
     設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。
     設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。
  2. 【←】キーまたは【→】キーを押して、「いいえ」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
     すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

■ CE シリーズの場合

設定した内容を取り消すには、設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了します。

1 【←】キーまたは【→】キーを押して「終了」にカーソルを合わせます。
「終了」メニューが表示されます。サブメニューを表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ～ 3 回押してください。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「変更を保存せずに終了する（起動）」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。

3 【←】キーまたは【→】キーを押して、「いいえ」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。次の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

■ F シリーズの場合

1 各メニューの設定を終了し、【←】キーまたは【→】キーを押して「終了」メニューにカーソルを合わせます。
「終了」メニューが表示されます。サブメニューを表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ～ 3 回押してください。

2 次のいずれかの操作を行います。

●設定を保存して BIOS セットアップを終了し、再起動する場合

1. 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「変更を保存して終了する」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
2. 【←】キーまたは【→】キーを押して、「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。

●設定を保存して BIOS セットアップを終了し、電源を切る場合

1. 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「変更を保存して電源を切る」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
2. 【←】キーまたは【→】キーを押して、「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。

●設定を変更しないで終了する場合

1. 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「変更を保存せずに終了する」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
2. 【←】キーまたは【→】キーを押して、「いいえ」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。

■ CE シリーズの場合

1 各メニューの設定を終了し、【←】キーまたは【→】キーを押して「終了」メニューにカーソルを合わせます。

「終了」メニューが表示されます。サブメニューを表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを 2 ～ 3 回押してください。

2 次のいずれかの操作を行います。

●設定を保存して BIOS セットアップを終了し、再起動する場合

1.【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「変更を保存して終了する（再起動）」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

2.【←】キーまたは【→】キーを押して、「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。

●設定を保存して BIOS セットアップを終了し、電源を切る場合

1.【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「変更を保存して終了する（電源OFF）」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

2.【←】キーまたは【→】キーを押して、「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。

●設定を変更しないで終了する場合

1.【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「変更を保存せずに終了する（起動）」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

2.【→】キーまたは【←】キーを押して、「いいえ」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。

BIOS をご購入時の設定に戻す

ここでは、設定を変更した BIOS を、ご購入時の状態に戻す手順について説明しています。

■ F シリーズの場合

1 BIOS セットアップを起動します。

2 【←】キーまたは【→】キーを押して「終了」にカーソルを合わせます。

「終了」メニューが表示されます。

3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「標準設定値を読み込む」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

「標準設定値を読み込みますか？」というメッセージが表示されます。

4 【←】キーまたは【→】キーを押して、「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップの設定項目に、標準設定値が読み込まれます。

5 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「変更を保存して終了する」または「変更を保存して電源を切る」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

「変更した内容を保存して終了しますか？」または「変更した内容を保存して電源を切りますか？」というメッセージが表示されます。

重要

- ハードディスクのセキュリティ機能を設定した場合は、必ず「変更を保存して電源を切る」を選択してください。「変更を保存して電源を切る」を選択すると、【Enter】キーを押した後に自動的にパソコンの電源が切れます。

6 【←】キーまたは【→】キーを押して、「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップが終了し、パソコンが再起動します。

■ CE シリーズの場合

1 BIOS セットアップを起動します。

2 【←】キーまたは【→】キーを押して「終了」にカーソルを合わせます。

「終了」メニューが表示されます。

3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「標準設定値を読み込む」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

「標準設定値を読み込みますか？」というメッセージが表示されます。

4 【←】キーまたは【→】キーを押して、「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップの設定項目に、標準設定値が読み込まれます。

5 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「変更を保存して終了する（再起動）」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

「変更した内容を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。

6 【←】キーまたは【→】キーを押して、「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップが終了し、パソコンが再起動します。

BIOS のパスワード機能

このパソコンでは、不正使用を防止するために BIOS のパスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外はこのパソコンを使用できなくなります。
また、BIOS のパスワードといっしょにハードディスクセキュリティを設定すると、ハードディスクの盗難による情報漏洩や不正使用を防止できます。
BIOS のパスワードは、Windows が起動する前の設定なので、Windows のログオンパスワードよりもさらにセキュリティを高めたいときに有効です。

BIOS のパスワードを設定するとできること

BIOS のパスワードを設定すると、次の場合にパスワードの入力を要求され、パスワードを知っている人のみこのパソコンを使用できるようになります。また、BIOS のパスワードといっしょにハードディスクセキュリティを設定すると、ハードディスクの盗難による情報漏洩や不正使用を防止できます。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- スリープから元の状態に戻るとき（スリープ中に電源が切れた場合のみ）
- 休止状態から元の状態に戻るとき

パスワードの入力を要求されるタイミングは、BIOSセットアップの「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」で設定します。

- 使用しない
  BIOS セットアップを始めるときにパスワードを要求されます。
- 最初のみ
  パソコンの電源を入れたときにパスワードを要求されます。

● 毎回
パソコンの電源を入れたとき、パソコンを再起動したとき、およびスリープから元の状態に戻るときにパスワードを要求されます。

Point

▸「セキュリティ」メニューの「自動ウェイクアップ時」を「使用しない」に設定している場合
「起動時のパスワード」を「最初のみ」または「毎回」に設定しても、テレビの録画予約によってパソコンを自動的に起動するとき（テレビチューナー搭載機種のみ）や、Wakeup on LAN 機能などを使ってパソコンを自動的に起動する場合にはパスワードを要求されません。

BIOS のパスワード機能をお使いになるうえでの注意

このパソコンで BIOS のパスワード機能を使うときは、次の点に注意してください。

● パスワード設定時は、必ず次のことを行ってください。
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。
そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
・解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
・設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておく
また、これらは安全な場所に保管しておいてください。
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

● パスワードを忘れるとすべてのデータが消えてしまいます。
ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしてもパスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。
パスワードの管理には充分注意してください。

パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の３つです。

- 管理者用パスワード
  このパソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
  「管理者」以外でこのパソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。BIOS セットアップで変更可能な項目に制限があります。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ハードディスク用パスワード
  このパソコンのハードディスクを、他のパソコンでは使用できないようにしたいときに使用するパスワードです。ハードディスクを他のパソコンに取り付けて使用する場合に認証が必要となるため、ハードディスクが盗難にあったときなどに情報漏洩や不正使用を防止します。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

管理者用パスワード、ユーザー用パスワードを設定する方法を説明します。ハードディスクパスワードを設定する方法は、「ハードディスクにセキュリティ機能を設定する」（→ P.79）をご覧ください。

■ F シリーズの場合

1　BIOS セットアップを起動します。

2　【←】キーまたは【→】キーを押して「セキュリティ」にカーソルを合わせます。
「セキュリティ」メニューが表示されます。

3　【↑】キーまたは【↓】キーを押して、変更したいパスワード（管理者用パスワードまたはユーザー用パスワード）を選び、【Enter】キーを押します。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

4　1 ～ 32 桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」で設定することができます。

5　パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

6　手順４で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
「セットアップ通知」ウィンドウが表示されます。

7 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」ウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 4 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

8 「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を「使用しない」以外に設定します。

パソコンを起動したときに、BIOS のパスワードを求めるウィンドウが表示される設定になります。

9 BIOS セットアップを終了します。

設定内容を保存して終了してください。

■ CE シリーズの場合

1 BIOS セットアップを起動します。

2 【←】キーまたは【→】キーを押して「セキュリティ」にカーソルを合わせます。

「セキュリティ」メニューが表示されます。

3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、変更したいパスワード（管理者用パスワードまたはユーザー用パスワード）を選び、【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

4 1 ～ 32 桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「＊」が表示されます。

5 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

パスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力が求められます。

6 手順４で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というウィンドウが表示されます。

7 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

8 BIOS セットアップを終了します。

設定内容を保存して終了してください。

ハードディスクにセキュリティ機能を設定する

ハードディスク用パスワードを設定すると、特定の人だけがハードディスクから情報を読み出せるようにセキュリティをかけることができます。

■ F シリーズの場合

重要

- パソコンの電源が入っている場合
  ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更する場合は、必ず電源をいったん切り、再度パソコンの電源を入れて BIOS セットアップを起動した後、手順 2 から操作してください。
  また、ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更した後は、BIOS セットアップの「終了」メニューの「変更を保存して電源を切る」を実行してパソコンの電源を切ってください。
  これらの手順を守らないと、変更した内容が正しく反映されない場合があります。

1 BIOS セットアップを起動します。

2 【←】キーまたは【→】キーを押して「セキュリティ」にカーソルを合わせます。
「セキュリティ」メニューが表示されます。

3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「ハードディスクセキュリティ」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

4 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「ドライブ 0 用パスワード設定」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

5 1 〜 32 桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

6 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

7 手順 5 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
「セットアップ通知」ウィンドウが表示されます。

8 【Enter】キーを押して、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」ウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 5 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

9 BIOS セットアップを終了します。
「変更を保存して電源を切る」を選択してください。

■ CE シリーズの場合

重要

- パソコンの電源が入っている場合
  ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更する場合は、必ず電源をいったん切り、再度パソコンの電源を入れて BIOS セットアップを起動した後、手順 2 から操作してください。
  また、ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更した後は、BIOS セットアップの「終了」メニューの「変更を保存して終了する（電源 OFF）」を実行してパソコンの電源を切ってください。
  これらの手順を守らないと、変更した内容が正しく反映されない場合があります。

1 **BIOS セットアップを起動します。**

2 **【←】キーまたは【→】キーを押して「セキュリティ」にカーソルを合わせます。**
「セキュリティ」メニューが表示されます。

3 **【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「ハードディスクセキュリティ」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。**

4 **【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「ドライブ 0 用パスワード設定」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。**
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

5 **1 ～ 32 桁までのパスワードを入力します。**
入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「＊」が表示されます。

6 **パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。**
パスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力が求められます。

7 **手順 4 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。**
「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というウィンドウが表示されます。

8 **【Enter】キーを押して、設定を終了します。**
再入力したパスワードが間違っていた場合は、手順 4 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

9 **BIOS セットアップを終了します。**
「変更を保存して終了する（電源 OFF)」を選択してください。

パスワード機能を使う

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- スリープから元の状態に戻るとき（スリープ中に電源が切れた場合のみ）
- 休止状態から元の状態に戻るとき

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

- 設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「パスワードが間違っています。どれかキーを押してください。」というメッセージが表示されます。その場合は、【Enter】キーを押し、正しいパスワードを入力してください。
- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。
  - ・F シリーズの場合は、⏻（電源）マークに 4 秒以上触れ続けてパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。
  - ・CE シリーズの場合は、電源ボタンを押してパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを変更する／削除する

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

□F シリーズの場合

1 BIOS セットアップを起動します。

2 【←】キーまたは【→】キーを押して「セキュリティ」にカーソルを合わせます。

「セキュリティ」メニューが表示されます。

3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、変更したいパスワードを選び、【Enter】キーを押します。

・管理者用パスワード設定
・ユーザー用パスワード設定
・ハードディスクセキュリティ→ドライブ 0 用パスワード設定

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

4 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

5 1 ～ 32 桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

6 手順 5 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。

7 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」ウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 5 からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

Point

- 誤ったパスワードを 3 回入力した場合
「システムは使用できません。」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードなどが一切反応しなくなるので、パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

□CE シリーズの場合

1 BIOS セットアップを起動します。

2 【←】キーまたは【→】キーを押して「セキュリティ」にカーソルを合わせます。

「セキュリティ」メニューが表示されます。

3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、変更したいパスワードを選び、【Enter】キーを押します。

・管理者用パスワード設定
・ユーザー用パスワード設定
・ハードディスクセキュリティ→ドライブ 0 用パスワード設定

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

4 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

新しいパスワード入力用のウィンドウが表示されます。

5 1 ～ 32 桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

パスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力が求められます。

6 手順５で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というウィンドウが表示されます。

7 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

Point

- 誤ったパスワードを 3 回入力した場合
「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、電源ボタンを押してパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順を最初から行い、手順５～６で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

パソコンを起動した直後に、画面上にメッセージが表示される場合があります。これらのメッセージは「BIOS セットアップ」という、パソコンの環境を設定するためのプログラムが表示しています。

メッセージが表示されたときは

パソコン本体や周辺機器に問題があると、パソコンを起動したときにエラーメッセージが表示されます。
エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを起動して各項目の値が正しいか確認してください。
また、BIOS セットアップの設定値を標準設定値（ご購入時の設定）に戻して起動し直してください。
それでもメッセージが表示される場合は、手順 2 に進んでください。

2 周辺機器を取り外します。

別売の周辺機器やメモリなどを取り付けている場合には、パソコンの電源を切ってからそれらの周辺機器を取り外し、パソコンの電源を入れ直して、動作を確認してください。
それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を 1 つずつ取り付け、パソコンの電源を入れ直して、動作を確認してください。
また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

これらの処置をしても、まだ同じメッセージが表示される場合や、次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、『取扱説明書』－「サポートのご案内」をご覧ください。

メッセージ一覧

このパソコンが表示するメッセージ一覧は、次のとおりです。メッセージ中の「n」には数字が表示されます。また、メッセージは機種により異なります。

- **BOOT:Couldn't find NTLDR**
  Please insert another disk
  FDD ユニット（USB）に、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **BOOT Failure**
  Press any key to continue
  OS が見つからなかったことを示しています。
  BIOS セットアップの「詳細」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。
- **Bus:nnh Dev:nnh Fun:nnh PCI Parity Error**
  Bus:nnh Dev:nnh Fun:nnh PCI パリティエラー
  拡張カードを取り付けているときは、拡張カードが正しく取り付けられていることを確認し、電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **Bus:nnh Dev:nnh Fun:nnh PCI System Error**
  Bus:nnh Dev:nnh Fun:nnh PCI システムエラー
  拡張カードを取り付けているときは、拡張カードが正しく取り付けられていることを確認し、電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **CPU ファンエラー。システムの電源が切れます。**
  CPU ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **CPU Fan Error**
  CPU ファンエラーまたは CPU ファンが接続されていません。
  「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **Event Log area is full. No more events will be logged.**
  To clear event logs, please enter BIOS Setup.
  イベントログの記録領域が一杯になりました。
  BIOS セットアップを起動して、イベントログを削除してください。
  イベントログの記録領域がいっぱいになったことを示しています。
  【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、「詳細」メニューで「イベントログ設定」－「イベントログの消去」の順に選択して【Enter】キーを押してください。「イベントログを消去しますか ?」というメッセージが表示されるので、「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押してください。
- **＜F1＞キーを押すと継続、＜F2＞キーを押すとBIOSセットアップを起動します。**
  起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- **Keyboard/Interface Error.**
  キーボードコントローラのエラーです。
  キーボードコントローラーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  キーボードが正しく接続されていることを確認し、電源を入れ直してください。
  それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **Non-System disk or disk error**
  Replace and press any key to ready
  FDD ユニット（USB）に、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **NTLDR is missing**
  Press any to restart
  「マイリカバリ」の準備ができていないことを示します。
  【Space】キーなどを押し、本パソコンを再起動してください。
  「マイリカバリ」については、『取扱説明書』－「バックアップ」をご覧ください。
- **NVRAM データが正しくありません。**
  NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
  本メッセージが表示されているときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Press F1 to resume**
  Press F2 to Run Setup
  ＜ F1 ＞キーを押すと継続します。
  ＜ F2 ＞キーを押すと BIOS セットアップを起動します。
  起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- **System CMOS checksum bad**
  システム CMOS のチェックサムが正しくありません。
  CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
  【F2】キーを押して、BIOS セットアップを起動し、BIOS をご購入時の設定に戻してください（→ P.74）。
  それでも本メッセージが表示されるときは、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられます。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **System Disabled**
  システムは使用できません。
  不正確なパスワードが入力されました。電源ボタンを押して電源を切り、もう一度このパソコンの電源を入れてください。
  パスワードを忘れてしまった場合は、修理が必要になります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
  なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

- **拡張メモリエラー。アドレス行 : nn**
  拡張メモリのテスト中にエラーが発見されたことを示しています。
  本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **キーボードエラーです。**
  キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。**
  CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、標準設定値が設定されたことを示しています。
  【F2】キーを押して、BIOS セットアップを起動し、BIOS をご購入時の設定に戻してください（→ P.74）。
  それでも本メッセージが表示されるときは、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられます。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **システムタイマーのエラーです。**
  システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **システムファンエラー。システムの電源が切れます。**
  システムファンのテストでエラーが発生したことを示しています。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。**
  前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
  起動途中に電源を切ってしまったり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。

- **前回の起動中に CPU ファンエラーが発生しました。**
  前回の起動時の自己診断テスト中に、CPU ファンエラーが発生していたことを示します。

- **前回の起動中にシステムファンエラーが発生しました。**
  前回の起動時の自己診断テスト中に、システムファンエラーが発生していたことを示します。

- **ディスクのエラーです。: ハードディスク n**
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **日付と時刻の設定を確認してください。**
  日付と時刻の設定値が正しくありません。
  設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

- **リアルタイムクロックのエラーです。**
  リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

文字コードの取り扱いに関する注意

環境依存文字の取り扱いについて

環境依存文字とは、お使いのソフトウェアや相手のパソコンの環境によって、正しく表示されない可能性のある文字のことです。

文書データなどを作成するときに環境依存文字を使用すると、E メールやホームページ上で字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。

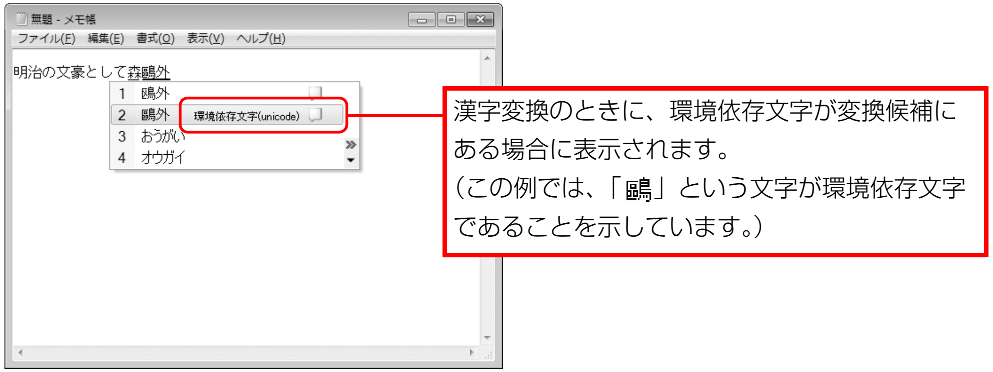
環境依存文字を使用すると、次のようなトラブルが起きることがあります。
トラブルを避けるため、環境依存文字はできるだけ使用しないことをお勧めします。

- E メールのやり取りで環境依存文字を使用すると、送信側と受信側で、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。
- ソフトウェアが環境依存文字に対応していない場合、ソフトウェアが環境依存文字を正しく表示したり認識したりできない場合があります。
- お使いのプリンターによっては、環境依存文字を使用して印刷すると、字形が異なったり崩れたりして印刷される場合があります。
- インターネットのサイトなどで運用側のシステムが環境依存文字に対応していない場合、環境依存文字を入力すると、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。
  例　ショッピングサイト、検索サイト、ブログ、ホームページ、インターネット掲示板など

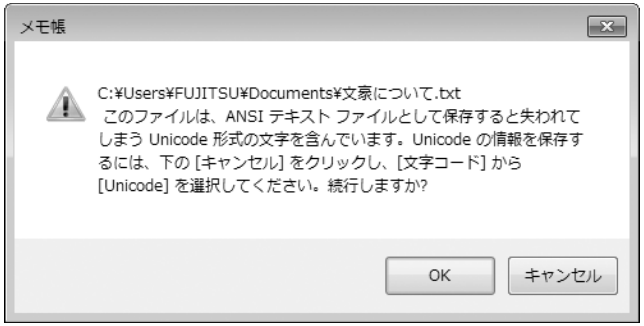
Windows 7 では、環境依存文字を取り扱うときに、注意をうながすメッセージが表示されます。

次に表示されるメッセージの例を説明します。

例 1 文字入力中に環境依存文字を示すメッセージ



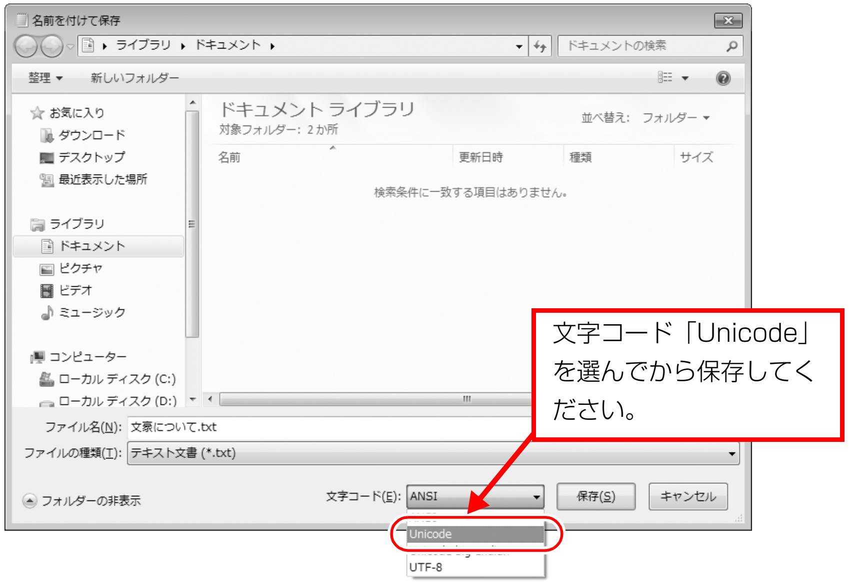
例 2 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されるメッセージ



- 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されます。
  「キャンセル」をクリックすると作成中の状態に戻るので、環境依存文字を変更して保存し直すことをお勧めします。

Point

- 文字コードを他の形式にして保存するには
  環境依存文字を含んだファイルは、次のように文字コードを Unicode 形式にすることで保存できます。
  ただし、Unicode に対応していない OS やソフトウェアでこのファイルを開くと、文字化けを起こしたり正常に表示されなかったりする場合がありますのでご注意ください。



Windows 7 と Windows XP 以前との文字の互換性（2009 年 12 月現在）

Windows 7 および Windows Vista は、日本工業規格「JIS X 0213:2004」に対応しています。Windows XP 以前の OS は「JIS X 0213:2004」に対応していないため、「JIS X 0213:2004」で新たに追加された文字や字形変更された文字を使用して作った文書データは、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。また、Windows XP 以前の OS で作られた文書データに、「JIS X 0213:2004」で字形変更された文字が含まれる場合は、異なった字形で表示されます。

□参考：JIS X 0213:2004 改正における字形変更の比較（一例）

改正後字形：Windows 7 および Windows Vista　改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形
5026	倦	倦	5C60	屠	屠	6753	杓	杓	701E	瀞	瀞
50C5	僅	僅	5DF7	巷	巷	6962	楢	楢	7026	瀦	瀦
5132	儲	儲	5E96	庖	庖	698A	榊	榊	7058	灘	灘
51A4	冤	冤	5EDF	廟	廟	6994	榔	榔	707C	灼	灼
537F	卿	卿	5FBD	徽	徽	69CC	槌	槌	7149	煉	煉
53A9	厩	厩	6062	恢	恢	6A0B	樋	樋	714E	煎	煎
53DB	叛	叛	6108	愈	愈	6A3D	樽	樽	717D	煽	煽
54E8	哨	哨	6241	扁	扁	6ADB	櫛	櫛	7259	牙	牙
55A9	喩	喩	6357	捗	捗	6B4E	歎	歎	7337	猷	猷
5632	嘲	嘲	6372	捲	捲	6C72	汲	汲	7511	甑	甑
5642	噂	噂	63C3	揃	揃	6DEB	淫	淫	75BC	疼	疼
564C	噌	噌	647A	摺	摺	6EA2	溢	溢	77A5	瞥	瞥
56C0	囀	囀	64B0	撰	撰	6EBA	溺	溺	7941	祁	祁
5835	堵	堵	64E2	擢	擢	6F23	漣	漣	7947	祇	祇
5C51	屑	屑	6666	晦	晦	7015	瀕	瀕	79B0	禰	禰

UCS: Universal multiple-octet coded Character Set

改正後字形：Windows 7 および Windows Vista　改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形
79E4	秤	秤	84EC	蓬	蓬	8CED	賭	賭	9306	錆	錆
7A7F	穿	穿	8511	蔑	蔑	8FBB	辻	辻	939A	鎚	鎚
7B08	笈	笈	853D	蔽	蔽	8FBF	辿	辿	9453	鑓	鑓
7B75	筵	筵	85A9	薩	薩	8FC2	迂	迂	9784	鞄	鞄
7BAD	箭	箭	85AF	薯	薯	8FC4	迄	迄	9798	鞘	鞘
7BB8	箸	箸	85F7	藷	藷	8FE6	迦	迦	98F4	飴	飴
7BC7	篇	篇	86F8	蛸	蛸	9017	逗	逗	9905	餅	餅
7BDD	篝	篝	8755	蝕	蝕	9019	這	這	990C	餌	餌
7C3E	簾	簾	8956	襖	襖	9022	逢	逢	9957	饗	饗
7C7E	籾	籾	8A1D	訝	訝	903C	逼	逼	9A19	騙	騙
7FEB	翫	翫	8A3B	註	註	9041	遁	遁	9BD6	鯖	鯖
7FF0	翰	翰	8A6E	詮	詮	905C	遜	遜	9C2F	鰯	鰯
817F	腿	腿	8AFA	諺	諺	9061	遡	遡	9C52	鱒	鱒
82A6	芦	芦	8B0E	謎	謎	912D	鄭	鄭	9D09	鴉	鴉
8328	茨	茨	8B2C	謬	謬	914B	酋	酋	9D60	鵠	鵠
845B	葛	葛	8C79	豹	豹						

FMV-DESKPOWER

補足情報
B6FJ-3621-01 Z0-00

発 行 日　2010 年 1 月
発行責任　富士通株式会社